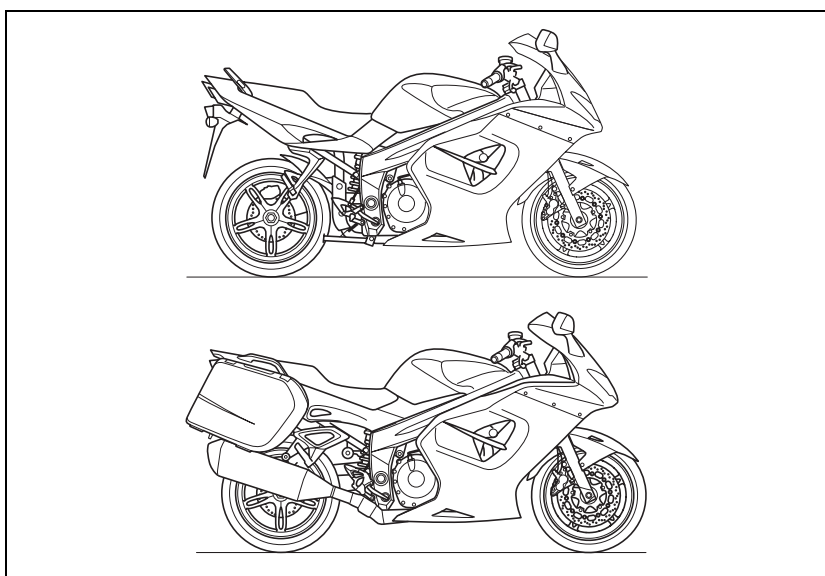
はじめに

本取扱説明書は、Triumph Sprint ST と Sprint GT について解説したものです。この取扱説明書は、常にモーターバイクと共に保管し、必要な時はいつでも情報を得るために参照してください。

警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：

警告

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。

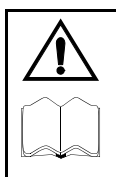
注意

この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。

はじめに

警告ラベル

モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行なったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、*10*ページと*11*ページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。

お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。

最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウエブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

- 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、
- 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph 社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。

Triumph 社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

本取扱説明書は貴地のディーラーからも入手できます。

- オランダ語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 英語
- スペイン語
- スウェーデン語

⚠ 警告

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなくてはなりません。お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

Triumph との絆

お客様との関係は、Triumph 購入の時点で終わるのではありません。弊社製品を購入されたお客様に、その後体験されたことをフィードバックしていただくことは、製品開発とサービス向上に極めて重要です。代理店にお客様のメールアドレスをお伝えいただき、登録をお願い申し上げます。お客様のメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査書を送信いたしますので、フィードバックをお願い申し上げます。

Triumph チームより

はじめに

情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

出版部品番号 3856191 第 1 版

目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

はじめにー安全第一

モーターバイク

警告

このモーターバイクはオンロード専用に設計されています。オフロードでの使用には適しません。

オフロード走行をした場合、モーターバイクのコントロールが失われて人身事故に帰する恐れがあります。

警告

本モーターバイクは、トレーラーの牽引やサイドカーの取り付けを意図して設計されていません。サイドカー及び / 又はトレーラーの取り付けは、操縦性を損なって事故を招く恐れがあります。

警告

本モーターバイクは、ライダーを単独で、または (タンデムシートが装備されている場合は) ライダーとひとりの同乗者を一緒に運べる二輪車として使用するように設計されています。

ライダー、(ある場合は) 同乗者、アクセサリー、荷物の重量合計が、最大車載限度を超過してはなりません。

Sprint ST - 215 kg

Sprint GT - 215 kg

燃料と排気ガス

警告

ガソリンは非常に可燃性の高い物質です :

給油の際は必ずエンジンを止めてください。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で給油したり、フューエルフィラーキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだり、目に入れてしまった時は、即座に医師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水で洗い落とさなくてはなりません。ガソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その他の深刻な損傷を与える結果になりかねません。

警告

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけっぱなしにしないでください。排気ガスは有毒なので、短時間の内に意識が失われて死に至る恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

ライディング

⚠ 警告

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモータバイクを運転することは危険であり、モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

⚠ 警告

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- 通過する車両からの横風
- 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- 悪天候
- ライダーのミス

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

モータバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、防護メガネ、グローブ、ブーツ、(膝と足首まわりがフィットする)ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー(または同乗者)を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

⚠ 警告

頭をケガから守ってれくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー(または同乗者)を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。

cbma

ハンドルとフットレスト

⚠ 警告

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの操縦性と安定性に悪影響を及ぼし、バイクをコントロールしきれなくなって事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 警告

走行中は、ライダーも同乗者も常にフットレストに足をかけていなければなりません。

フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

駐車

警告

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください：

モーターバイクのスタンドが上がって転倒するのを防ぐため、ギヤをファーストに入れます。

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

警告

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、「Triumph モーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

整備 / 装備

警告

本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規 Triumph ディーラーに相談してください。

正しく機能していないモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

警告

磨耗が最大限度を超えているようなフットレストを装備したモーターバイクを運転すると、バイクが危険な角度まで傾くことがあります。

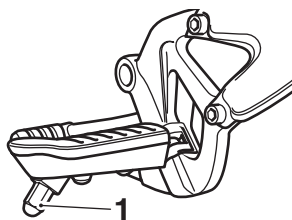
最大バンク角摩耗限度：

- Sprint ST - 残り 5 mm
- Sprint GT - 残り 15 mm

危険な角度まで横傾斜するとバイクを不安定な状態にし、制御しきれなくなって事故を起こす恐れがあります。

1. バンク角指示器

警告

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合もあります。不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

警告

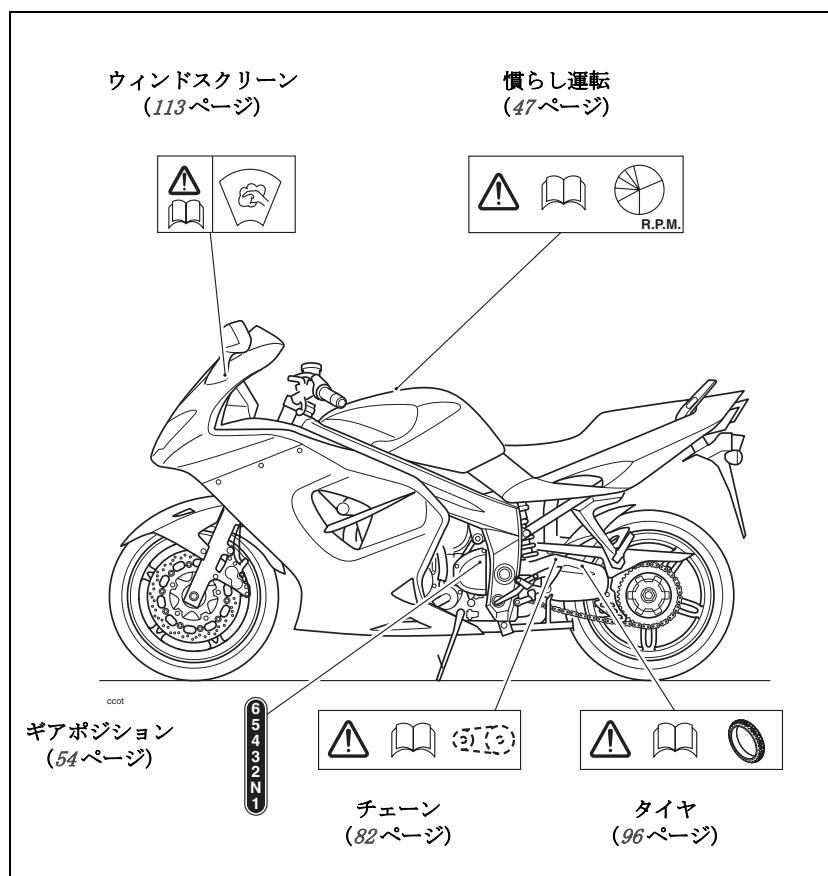
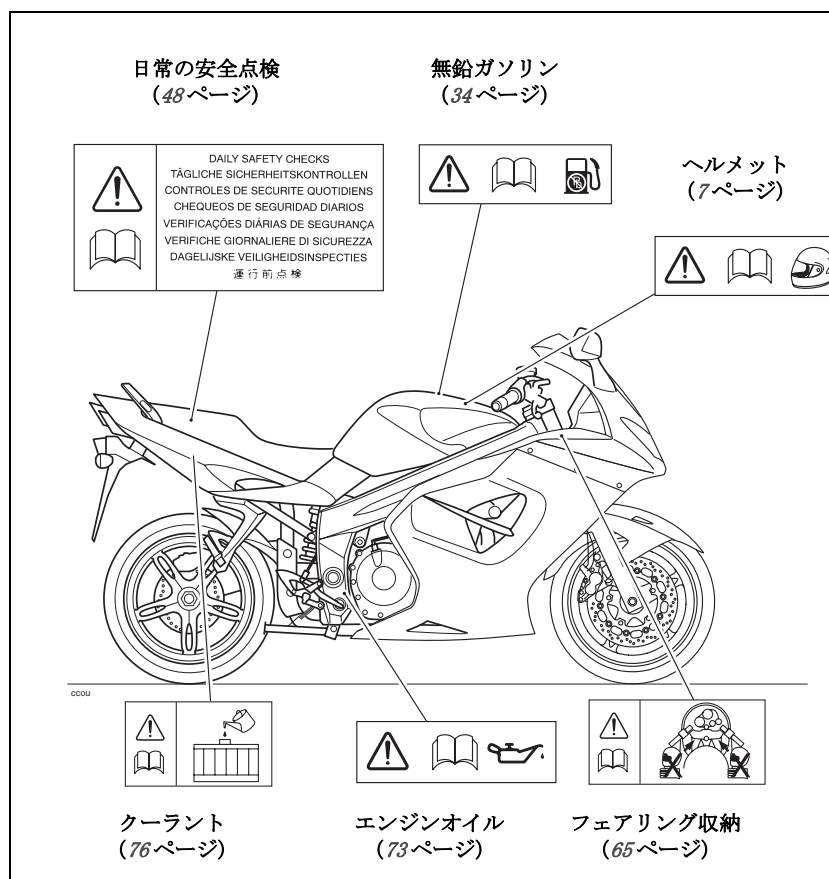
モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規 Triumph ディーラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

警告ラベル

このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。

警告ラベルの位置

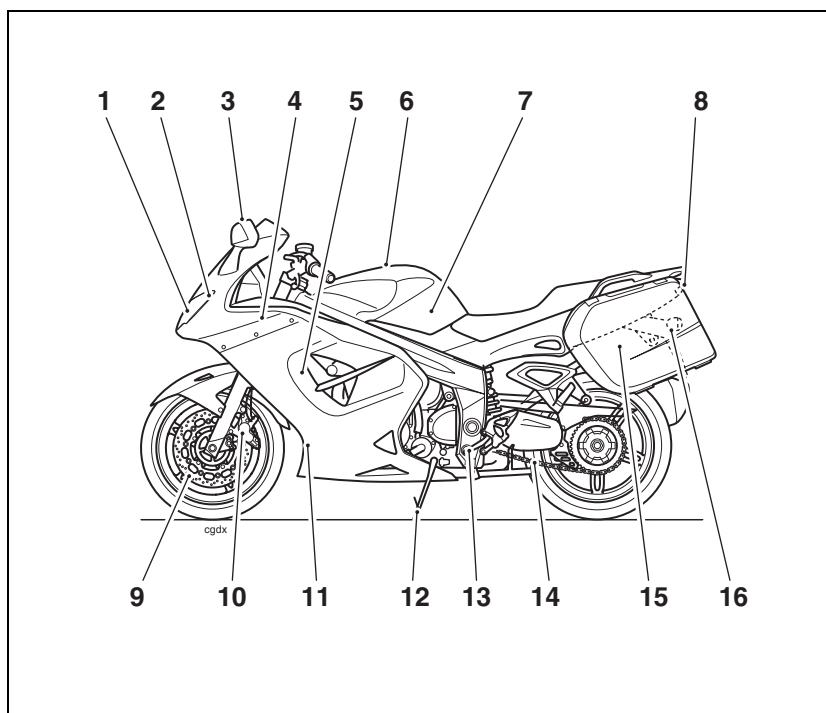
警告ラベルの位置（続き）

日常の安全点検
（48ページ）
DAILY SAFETY CHECKS
TÄGLICHE SICHERHEITSKONTROLLEN
CONTROLES DE SECURITE QUOTIDIENS
CHEQUEOS DE SEGURIDAD DIARIOS
VERIFICAÇÕES DIÁRIAS DE SEGURANÇA
VERIFICHE GIORNALIERE DI SICUREZZA
DAGELIJKSE VEILIGHEIDSINSPECTIES
運行前点検
無鉛ガソリン
（34ページ）
ヘルメット
（7ページ）
クーラント
（76ページ）
エンジンオイル
（73ページ）
フェアリング収納
（65ページ）

部品の名称

Sprint ST

1. ヘッドライト
2. ポジションランプ
3. フロントインジケーター
4. クーラント膨張タンク
5. ラジエター / クーラントプレッシャーキャップ
6. フューエルフィラーキャップ
7. 燃料タンク
8. リアライト
9. フロントブレーキディスク
10. フロントブレーキキャリパー
11. オイルクーラー
12. サイドスタンド
13. ギアチェンジペダル
14. ドライブチェーン
15. サイレンサー
16. リアインジケーター

Sprint ST

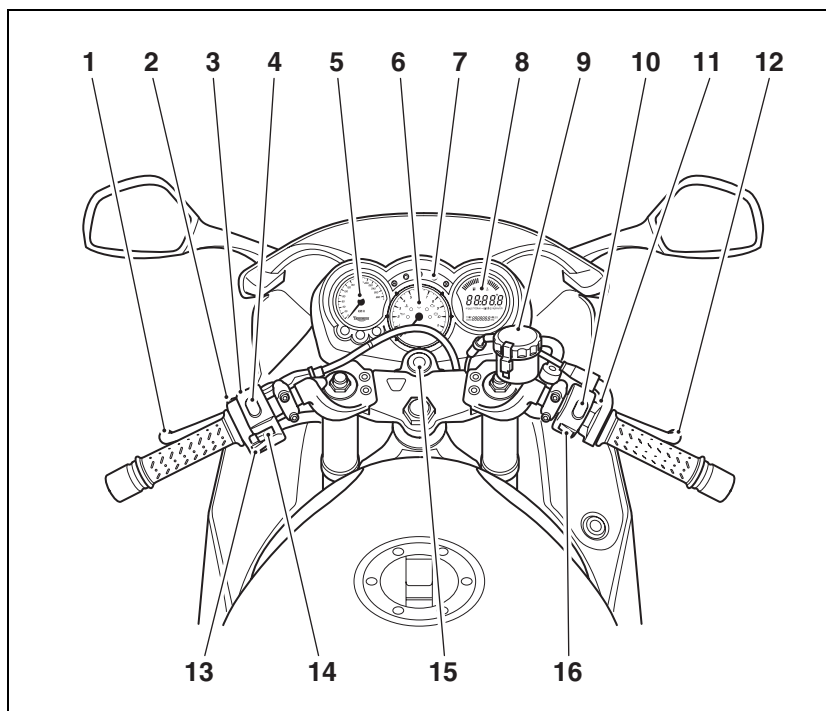
17.リアブレーキフルードリザーバ	23.リアブレーキキャリパー
18.バッテリー	24.リアブレーキペダル
19.リアサスペンションユニット	25.オイルフィラーキャップ / オイルゲージ
20.ツールキット	26.クラッチケーブル
21.フロントフォーク	
22.リアブレーキディスク	

部品の名称

Sprint GT

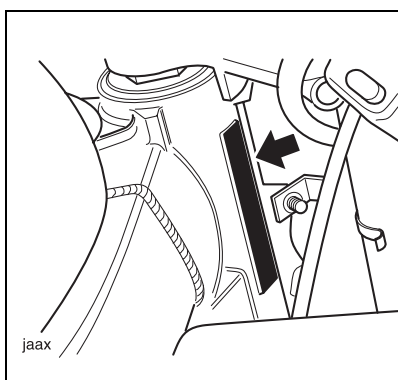
1. ヘッドライト
2. ポジションランプ
3. フロントインジケーター
4. クーラント膨張タンク
5. ラジエター / クーラントプレッシャーキャップ
6. フューエルフィラーキャップ
7. 燃料タンク
8. リアライト
9. フロントブレーキディスク
10. フロントブレーキキャリパー
11. オイルクーラー
12. サイドスタンド
13. ギアチェンジペダル
14. ドライブチェーン
15. パニア
16. リアインジケーター

Sprint GT

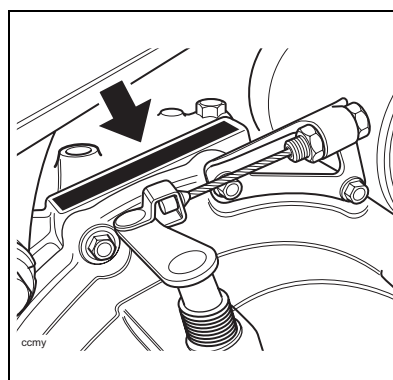
17. リアブレーキフルードリザーバ
18. バッテリー
19. リアサスペンションユニット
20. ツールキット
21. フロントフォーク
22. サイレンサー
23. リアブレーキディスク
24. リアブレーキキャリパー
25. リアブレーキペダル
26. オイルフィラーキャップ / オイルゲージ
27. クラッチケーブル

パーツ名称（続き）- Sprint ST と GT

1. クラッチレバー
2. パッシングボタン
3. クラッチレバーアジャスタ
4. ヘッドライトディップスイッチ
5. スピードメーター
6. タコメーター
7. 警告灯
8. トリップコンピューター
9. フロントブレーキフルードリザーバ
10. エンジンストップスイッチ
11. ブレーキレバーアジャスター
12. フロントブレーキレバー
13. ホーンボタン
14. 方向指示器スイッチ
15. イグニッションスイッチ
16. スターターボタン

シリアル番号

車体識別番号 (VIN)

車体識別番号は、フレームのステアリングヘッドエリアに刻印されています。ステアリングヘッドの真後ろ、フレームに鋲で留められているプレートにも表示されています。

以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

エンジンシリアル番号

エンジンシリアルナンバーは、クラッチカバーの真上にあるエンジンクランクケースに刻印されています。

以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

一般情報

目次

一般情報

計器盤のレイアウト

（図は Sprint ST、Sprint GT も類似）

1. タコメーター
2. タコメータ「レッドゾーン」
3. スピードメーター
4. オドメーター / トリップメーター
5. 時計 / トリップコンピューターディスプレイ
6. スクロール / セット / トリップボタン
7. クーラント温度ディスプレイ
8. 燃料計
9. 油圧低下警告灯
10. クーラント過熱警告灯
11. エンジン管理誤作動表示灯
12. ABS 警告ランプ（ABS モデルのみ）
13. 燃料レベル低下表示灯
14. ニュートラル表示灯
15. ハイビーム表示灯
16. 右ターンインジケーターランプ
17. 左ターンインジケーターランプ
18. アラーム状況表示灯（アラームは取付アクセサリー）

スピードメーター

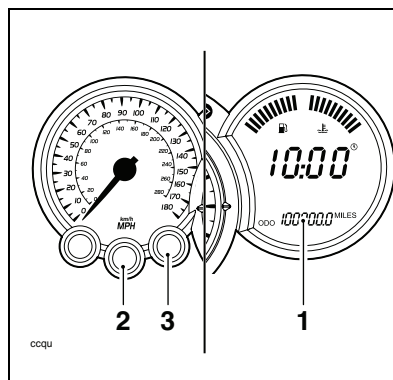
スピードメーターは、モーターバイクの走行速度を表示します。

タコメーター

タコメーターは、エンジンの毎分回転速度を rpm（r/min）で表示します。タコメーターの計器面の右側は「レッドゾーン」です。毎分エンジン回転速度（r/min）がレッドゾーンにある時は、推奨エンジン速度の上限を超え、最高の性能を発揮するエンジン速度の範囲を超えています。

警告

エンジンの rpm（毎分回転速度）がレッドゾーンに表示されるようなことは絶対に避けてください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。

オドメーター / トリップメーター

1. オドメーター / トリップメーター表示部
2. セットボタン
3. トリップボタン

オドメーターは、モーターバイクの走行距離の総計を表示します。

時計とトリップコンピューター同様に、オドメーターと２つのトリップメーターも同一の液晶表示画面にあります。いずれのトリップメーターも、表示部の数字（メーター）を最後にゼロにリセットした時点からのモーターバイクの走行距離を表示します。

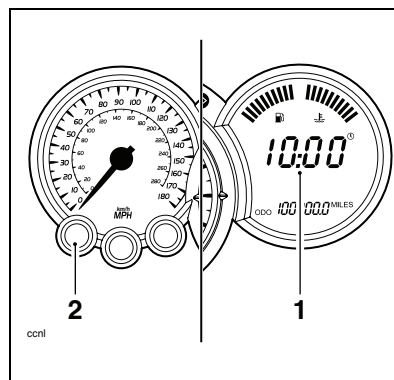
警告

モーターバイクの走行中にスイッチでオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。バイクを制御し損なって事故を引き起こす恐れがあるからです。

オドメーターとトリップメーターの表示モード切り替えは、「トリップ」ボタンで行なってください。所期のディスプレイが表示されるまで、繰り返し「トリップ」ボタンを押してください。この画面は順番にスクロールします。

- オドメーター
- トリップメーター 1
- トリップメーター 2

トリップメーターをリセットする場合はリセットしたい方を表示させ、「トリップ」ボタンを２秒間押してください。2 秒経過すると、表示部上のトリップメーターはゼロにリセットされます。

時計 / トリップコンピューター

1. 時計 / トリップコンピューターディスプレイ
2. スクロールボタン

時計とトリップコンピューターのデータは同じディスプレイに表示されます。

トリップコンピューターは、最後にリセットされて以降の、燃料消費量、タンクが空になるまでの残走行距離、速度、走行時間、走行距離を記録し、計算して数値を表示します。

各ディスプレイに以下のデータが表示されます :

瞬間燃料消費量

瞬間燃料消費量の表示。

平均燃料消費量

平均燃料消費量は、最後にトリップコンピューターをリセットして以降の消費量を計算して出した数値。リセットした後は、ディスプレイが 0.1 km 単位で表示されます。

残走行距離

これは、タンクに残っている燃料で走行可能な距離を表しています。

走行距離

前回リセットして以降の総走行距離。

走行時間

前回リセットして以降のの総経過時間。

平均速度

平均速度は、トリップコンピューターを前回リセットして以降のものです。リセットした後は、表示部が 1 km の単位で表示されます。

最高速度

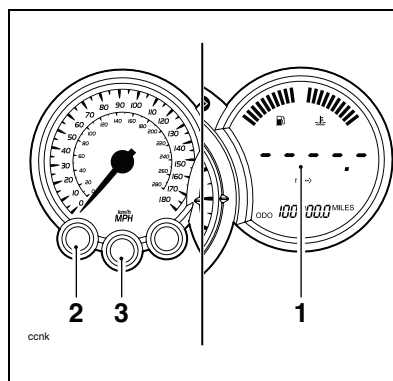
前回リセットして以降に達成した最高速度が表示されます。

トリップコンピューターの操作

イグニッションスイッチを入れると、時計ディスプレイが表示されます。トリップコンピューターのデータを表示するには、「スクロール」ボタンを押します。

所期のディスプレイが表示されるまで、繰り返し「スクロール」ボタンを押してください。トリップコンピューターは、順番にスクロールします：

- 時計
- 瞬間燃料消費量
- 平均燃料消費量
- 残走行距離
- 走行距離
- 走行時間
- 平均速度
- 最高速度

トリップコンピューターのリセット

1. トリップコンピューターディスプレイ
2. スクロールボタン
3. セットボタン

以下のトリップコンピューターディスプレイのリセット可能：

- 平均燃料消費量
- 走行距離
- 走行時間
- 平均速度
- 最高速度

⚠ 警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こす恐れがあるため、走行中にオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。

トリップコンピューターをリセットする場合、所期ディスプレイを選び、「スクロール」と「セット」ボタンを同時に 2 秒間押してください。2 秒経つと選択したディスプレイがリセットされます。

注記：

- 旅行距離、旅行時間、平均速度は同時にリセットされます。

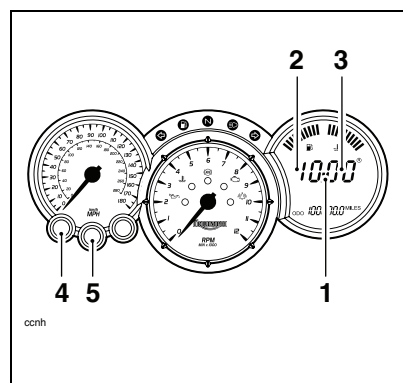
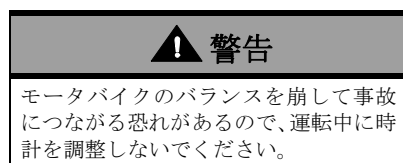
時計の調節

警告

モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

2 3

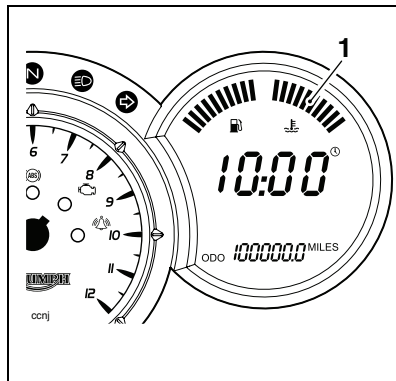
4 5 1

ccnh

1. 時計ディスプレイ
2. 時
3. 分
4. スクロールボタン
5. セットボタン

時計を設定しなおす場合、時計ディスプレイを選択し、「スクロール」と「セット」ボタンを同時に押してください。すると、時計の時が点滅します。

時を合わせるには、時が点滅しているのを確認し、「スクロール」ボタンを押して合わせます。1 回押すごとに、1 時間ずつ変化します。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

任意の時が表示されたら、「セット」ボタンを押してください。分表示が点滅し始めます。分は、時と同じやり方で合わせます。

時と分を合わせたら、「セット」ボタンを押して設定します。ディスプレイの点滅が止まります。

クーラント温度計

1. クーラント温度計

クーラント温度計はエンジンクーラントの温度を表示します。

イグニッションスイッチを入れると、ディスプレイの 10 本のバーが一斉に表示されます。冷えた状態でエンジンをスタートすると、バーが 1 本だけ表示されます。温度が上がるにつれて、ディスプレイに表示されるバーの数も増えます。

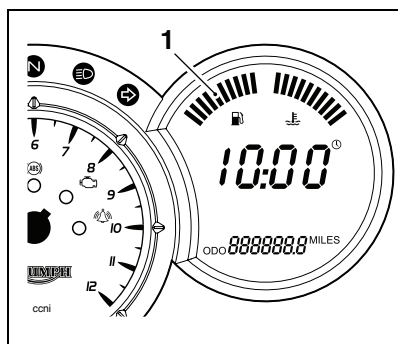
通常の温度の場合、バーが 3 〜 6 本表示されます。

クーラント温度が高くなり過ぎると、ディスプレイに表示されるバーの数が 9 本になって点滅します。タコメーターのクーラント過熱警告灯も点灯します。

クーラントの温度が更に上がると、ディスプレイの１０本のバーが一斉に点滅します。タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯したままになります。

注意

エンジンに多大な損傷をもたらす恐れがあるので、過熱警告が表示された場合はエンジンを止めてください。

燃料計

1. 燃料計

燃料計はタンクに入っている燃料の量を表示します。

イグニッションのスイッチを入れると、ディスプレイにバーが表示され、バーの数はタンク内の燃料レベルを示します。

燃料タンクが満タンの場合、ディスプレイに 10 本のバーが表示され、空の場合は全く表示されません。それ以外の場合、燃料レベルが満タンと空の間にあることを示しています。

バーが 2 本表示された場合、燃料レベル低下警告灯が点灯します。これは、タンクに約4.0リッターの燃料しか残っていないため、速やかに給油するように促しているのです。

給油後、モータバイクに乗っている場合のみ、燃料計と空になるまでの可航距離に関する情報が更新されます。

ライディングスタイルにもよりますが、普通は 5 分かかります。

警告灯

方向指示器

インジケータースイッチを左右いずれかに回すと、ターンインジケーターランプがターンインジケーターと同じテンポで点滅します。

ハイビーム

ハイビーム警告ランプは、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディップスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

燃料低下

タンク内の残存燃料が約 4.0 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

ニュートラル

ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチが ON の状態でギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

油圧低下警告灯

エンジンがかかっている状態で、エンジン油圧が危険レベルに低下した場合、タコメーターの油圧低下警告灯が点灯します。

⚠ 注意

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターの油圧低下警告灯が点灯します。

クーラント過熱警告灯

エンジンがかかっている状態でエンジンクーラントの温度が危険レベルになった場合、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

⚠ 注意

クーラント過熱警告灯が点灯したら、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

クーラント過熱警告灯が点灯している状態でエンジンが回転していると、エンジンに多大な損傷をもたらします。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

エンジン管理誤作動インジケータランプ

エンジン管理システムの誤作動表示灯は、イグニションスイッチをオンにした時に(それが機能していることを示すために)点灯しますが、エンジンがかかっている時に点灯することはありません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないほど深刻な故障でなければ、走行を続けられるようにエンジン管理システムがスイッチを「リンプ・ホーム」モードに切り替えます。

⚠ 警告

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにした時に誤作動表示灯が点滅する場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、そのような状態を正常化してもらってください。このような状態の時、エンジンは始動しません。**

アラーム表示灯

アラームランプは、アクセサリアラームの解説に記されている条件に合致したとき点灯します。

アラームを取り付けないと、ライトが点灯しません。

ABS （アンチ－ロックブレーキシステム）インジケーターランプ － Sprint GT のみ

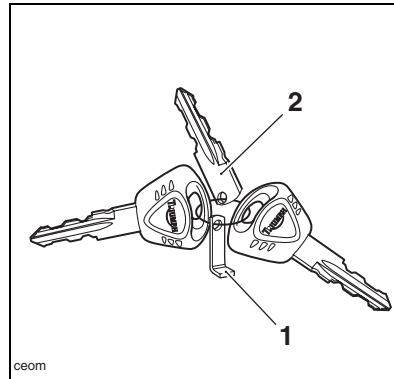
ABS 機能が使えくなると、ABS インジケーターランプが点灯します。エンジンをスタートしてから時速 10 km/h に達するまで、ランプが点灯しているのが正常な状態です。不具合が発生しない限り、エンジンを再びスタートさせるまで再び点灯することはありません。

それ以外で走行中にインジケーターランプが点灯するのは、ABS に誤作動が生じたからであり、点検が必要です。

警告

ABS が機能していないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動します。インジケーターランプが点灯したままの状態で、長く走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

55 ページのブレーキ操作についても参照してください。

イグニッションキー

1. キーナンバータグ
2. アラームシステムのキーブレード

イグニッションキーは、ステアリングロック/イグニッションスイッチを作動させるだけでなく、シートロックとフューエルタンクキャップを操作する際にも必要です。

工場よりモーターバイクを出荷する際、イグニッションキー２個、キーナンバーの入った小タグ、Triumph アクセサリーアラーム用スペアキーブレードを同梱します。キーナンバーを書き留め、スペアキー、キーブレード、キーナンバータグをモーターバイク以外の安全な場所に保管してください。

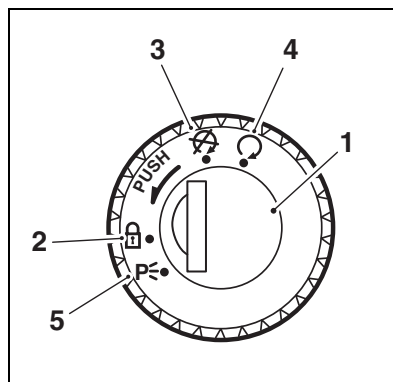
最寄りの正規 Triumph ディーラーは、キーナンバーのデータに基づいてカットした代替キーを供給したり、オリジナルをマスターキーに使って新しいキーをカットしたりできます。

注記：

- Sprint ST モデルの場合、3 個の使用していないロックがモーターバイクに同梱されています。このロックはオプションのアクセサリーパニアとトップボックス用であり、同一のキーでモーターバイクの他のロックもすべて可能であることを確認してください。
- Sprint GT モデルの場合、1 個の使用していないロックがモーターバイクに同梱されています。このロックはオプションのアクセサリートップボックス用であり、同一のキーでモーターバイクの他のロックもすべて可能であることを確認してください。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

イグニションスイッチ / ステアリングロック

1. イグニションスイッチ / ステアリングロック
2. LOCK ポジション
3. OFF ポジション
4. ON ポジション
5. PARK ポジション

イグニッションスイッチポジション

これはポジションが 4 つある、キー作動型スイッチです。キーは OFF、LOCK、または P (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

ロックするには:キーを OFF ポジションまで回し、押してからキーを完全に放します。それから LOCK ポジションまで回します。

駐車：LOCK ポジションから P ポジションにキーを回してください。ステアリングはロックされたままです。

注記：

- ステアリングロックを長い間Pポジションにセットしたままにしないでください。バッテリが上がる原因となります。

警告

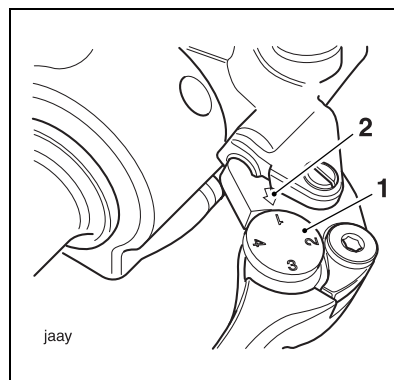
モーターバイクから離れる場合、万一のために必ずイグニションスイッチをOFFポジションにしてキーを抜き取ってください。

モーターバイクを無免許で乗り回した場合、ライダー自身や他の道路使用者、歩行者の負傷の原因となり、バイクの損傷にもつながりかねません。

警告

キーがLOCKやPポジションにあると、ステアリングがロックされます。

バイクが走行中は、絶対に、キーを回してLOCKまたはPポジションに入れたりしないでください。ステアリングがロックされるからです。ステアリングがロックされると、バイクは制御不能に陥って事故を招くことがあります。

ブレーキとクラッチレバーアジャスタ

1. アジャスターホイール
2. 三角マーク

フロントブレーキとクラッチレバーの両方にアジャスタがあります。このアジャスタを使うと、ハンドルバーからレバーまでの間隔を、操縦者の手の大きさに合わせて4段階に変えることができます。

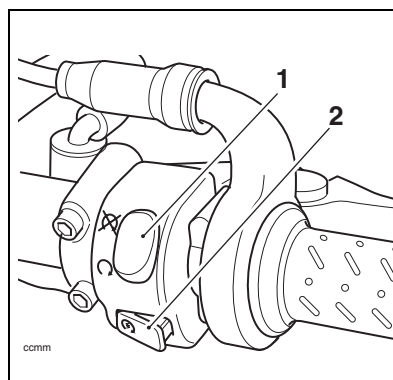
レバーを調整するには、それぞれのレバーを前の方に押してアジャスタホイールを回し、番号のついたポジションのひとつをレバーホルダー上の三角マークに合わせます。

ハンドルバーグリップと握られていないレバーの間隔は、4番にセットした時に最も短くなり、1番にセットした時に最も長くなります。

警告

モーターバイクが走行している時にレバーを調整しようとしないでください。バイクはコントロール不能に陥り、事故を引き起こしかねません。

レバーを調整した後は交通のない場所でモーターバイクを操縦し、新しいレバーの設定になじんでください。お持ちのバイクを他人に貸さないでください。借り手が、あなたの手になじんだレバー設定を変える可能性があり、バイクが制御不能になって事故を引き起こしかねません。

右ハンドルスイッチ

1. エンジンストップスイッチ
2. スターターボタン

エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチをRUNポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- **エンジンストップスイッチはエンジンを停止させますが、電装回路をすべてオフにするわけではないので、バッテリーが上がってエンジンの再始動を困難にする恐れがあります。通常は、エンジンンを止めるのに、イグニッションスイッチだけを使うべきです。**

⚠ 注意

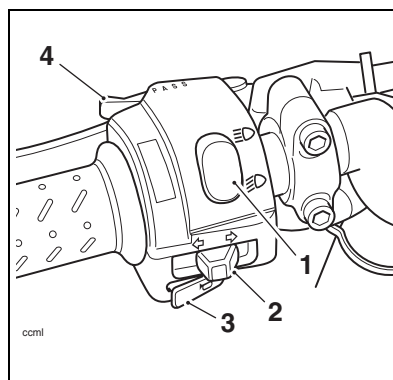
電装コンポーネントを損ない、バッテリーが放電する恐れがあるので、エンジンが回転していない時は、イグニッションスイッチを ON ポジションのままにしないでください。

スターターボタン

スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

注記：

- クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。

左ハンドルスイッチ

1. ヘッドライトディップスイッチ
2. 方向指示器スイッチ
3. ホーンボタン
4. パスボタン

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを後方に押します。ハイビームに入れると、ハイビーム表示灯が点きます。

注記：

- このモデルには、ライト用のオン / オフスイッチは付いていません。ヘッドライト、テールライト、ライセンスプレートライトはすべて、イグニッションを ON ポジションにすると自動的に作動します。

方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチを左または右に押してから放すと、対応している方向指示器が点滅します。指示器の作動を停止させるには、スイッチを押してから放します。

ホーンボタン

イグニッションスイッチが ON になっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

パスボタン

パスボタンを押すと、ヘッドライトメインビームのスイッチが入ります。パスボタンを押している間は、ヘッドライトのスイッチは入ったままで、ボタンを放すと途端に消えます。

燃料の条件 / 燃料補給

燃料の等級

cbnv

お買い上げのTriumphのエンジンは無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使った時に最高の性能を発揮します。必ずオクタン価 95RON の無鉛燃料を使用してください。

注意

オーストラリア、香港、ニュージーランド、南アフリカを除く国の排気装置には、排気ガスの排出量を低減する触媒作用コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

注意

国、州、地域によっては有鉛ガソリンの使用は違法とされています。有鉛ガソリンは、触媒作用コンバーター (装備されている場合)に損傷を与えることがあります。

⚠ 警告

燃料補給関連の危険を減らすため、以下の安全確保のための指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチを OFF にしてください。

禁煙厳守。

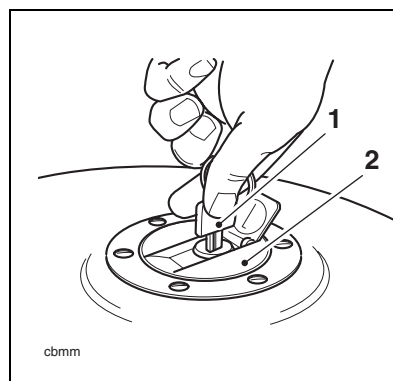
携帯電話は使用しないでください。

給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

燃料がフィラーネックに来るほどの満タンに、決してしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

フューエルタンクキャップ

1. イグニッションスイッチキー
2. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを開けるには、ロック自体を覆っているフラップを持ち上げます。キーをロックに差し込んで時計回りに回します。

キャップを閉じてロックするには、キーを差し込んだまま、ロックがカチッと音をたてて所定の場所におさまるまでキャップを押し下げます。キーを引き抜いてキーカバーを閉じます。

⚠ 注意

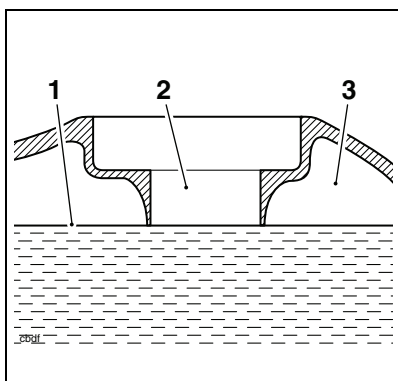
キーを差し込まずにキャップを閉じると、キャップ、タンク、ロック装置に損傷を与えることがあります。

燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

注意

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフィラーネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。

1. 燃料レベルの上限
2. フューエルフィラーネック
3. 空隙

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

警告

タンクをいっぱいにすると、燃料の流出を招く恐れがあります。

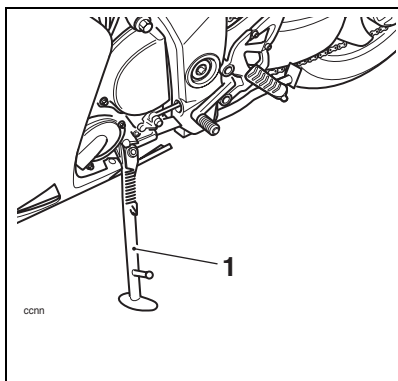
燃料をこぼした場合は、きれいに拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他のモーターバイクの部分に燃料をこぼさないよう注意してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤ付近あるいはタイヤ上に燃料をこぼすと、タイヤの路面グリップ能力が落ちます。その結果、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を生じさせることがあります。

スタンド

サイドスタンド

1. サイドスタンド

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。

警告

本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

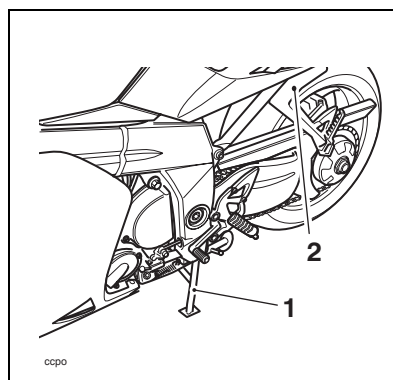
絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

注記：

- サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。

サイドスタンドを使用した時は必ずライディング前に、モーターバイクにまたがったらすぐスタンドが完全に戻していることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

センタースタンド

1. センタースタンド
2. 左側（図はSprint ST、Sprint GTも類似）

モーターバイクをセンタースタンドで立てるには、スタンドのフットファインダー部を下ろし、リフティングハンドルを掴んでモーターバイクを持ち上げ形で後方にずらします。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

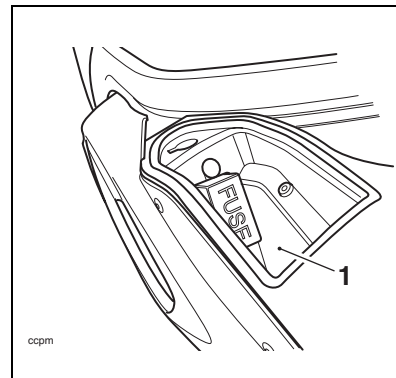
リフティングハンドル

リフティングハンドルは、モーターバイクの左側、同乗者用のフットレストハンガーの上にあります。

バイクをセンタースタンドで駐車する時は、必ずリフティングハンドルまたはグラブレールを使ってください。

警告

バイクに損傷するので、バイクをセンタースタンドで立てる時にサイドパネルやシートを取っ手にしないでください。

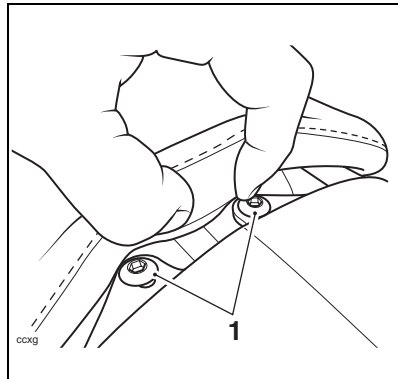
ツールキットと取扱説明書

1. ツールキット / ハンドブック位置
　(図は Sprint ST)

ツールキットと取扱説明書は、モーターバイク右側にある、かぎの掛けられる格納ボックスの中にあります。

ツールキットと取扱説明書が必要な場合、イグニッションキーをロックに差し込んでカバーを外します。

注記 :

- 収納ボックスには防水加工が施されていません。

シート - Sprint ST

1. シートファスナー

2 個のシート固定具は、シートの後端の下にあります。シートを取り外すには、シートの後端を押し戻し、露出した固定具のネジをゆるめます。固定具を取り外し、2 枚のフランジワッシャーを取ります。シートを持ち上げ、後方にスライドさせ、モーターバイクから完全に外します。

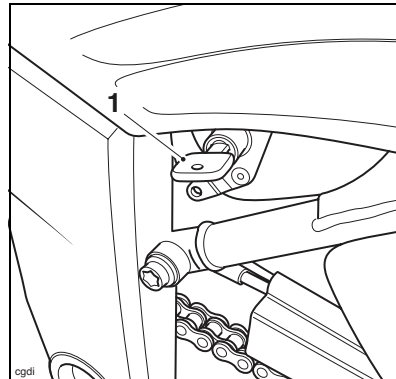
警告

サイレンサーヒートシールドがシートの真下にあり、触れられないほど過熱している可能性があります。熱くなったヒートシールドに触れると火傷をする恐れがあるので、ヒートシールドに触れないでください。

シートを再び取り付ける際、シートの突縁を燃料タンクの下でかみ合わせ、シートを前方にスライドさせてはめ込みます。

フランジワッシャーと固定具を再び取り付けます。

シートの固定具を 3 Nm で締め付けます。

シート - Sprint GT

1. シートロック

シートロックは、バッテリートレイの左側、フットレスト取り付けレールと並べて取り付けられています。シートを取り外すには、イグニッションンキーをシートロックに差し込み、シートの後部を押し下げながらキーを反時計回しに回します。これでシートはロックから外れますので、後方にずらしてモーターバイクから完全に取り去ることができます。

シートを再び取り付けるには、燃料タンク下にあるシートのフロントフック2個を入れ、リアサブフレームブリッジ下のセンターフックを入れ、シートを目一杯前にスライドさせます。後部を押してシートロックをかけます。

警告

走行中にシートが外れるのを防ぐために、取り付けた後で必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートがロックを適切に固定していないと、ロックが外れることがあります。シートがゆるんでいたり外れていると、バイクの制御が効かなくなり、事故を招く恐れがあります。

シートケア

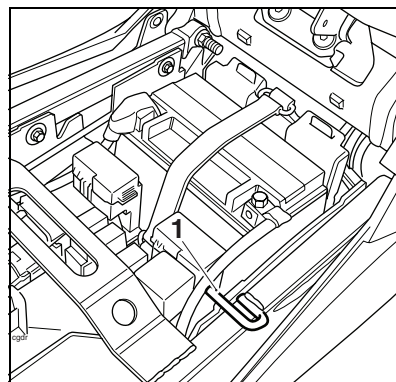
シートやシートカバーを傷つけないように、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つけそうな面に立てかけたりしないでください。

注意

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。シートやシートカバーをモーターバイクに立てかけたり、傷つけそうな面に立てかけないでください。シートは、シートカバーを上向けにして、柔らかい布でカバーしたきれいで平らな面においてください。

シートカバーを傷つけたり、染みをつくったりする可能性のあるものをシートの上においてはなりません。

ヘルメットフック - Sprint GT

シート下のヘルメットフックで、2個のヘルメットをモーターバイクに固定できます。

1. ヘルメットフック（図は右側）

ヘルメットをモーターバイクに取り付けるには、シートを外し、フックのヘルメットバンドに掛けますヘルメットを固定するには、シートを再びセットして所定の位置でロックします。

警告

ヘルメットをヘルメットフックに固定した状態で、絶対にモーターバイクを運転しないでください。ヘルメットをヘルメットフックに固定した状態でモーターバイクを運転すると、モーターバイクが不安定になり、バランスを崩して事故に至る恐れがあります。

注意

ヘルメットが熱いサイレンサーに接しないようにしてください。ヘルメットが損傷する恐れがあります。

Triumph アクセサリーD ロックストレージ - Sprint GT モデルのみ

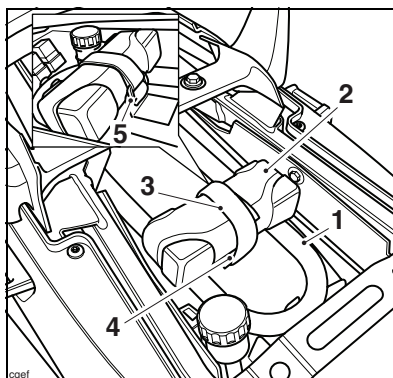
シート下のスペースに、Triumph アクセサリーD ロック（最寄りの Triumph ディラーで入手可）を入れます。

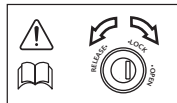
以下のようにロックします。

後部からリアマッドガードロックサポートを介してバンドを通すことで、バックルがモーターバイクの後部を向きます。

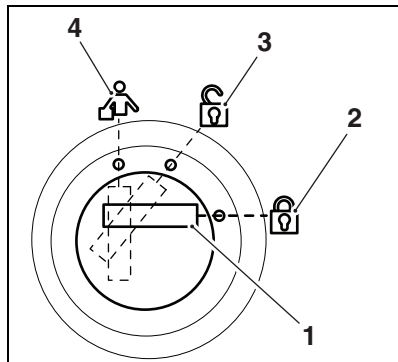
オープンエンドがモーターバイクの後部を向くように、ロックの U 部をリアマッドガードサポートフィーチャーにセットします。

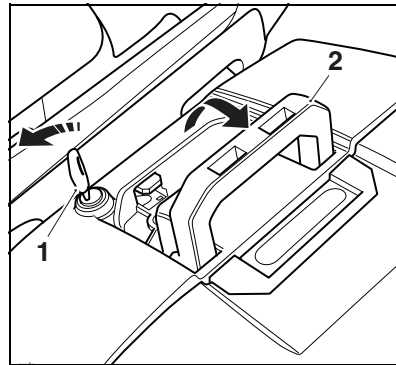
ロック本体をリアマッドガードのサポートにセットします。

ロックからバックルを介してバンドを通し、強く引っ張ってバンドのフックとループ部を固定します。

1. ロック U 部
2. ロック
3. フックとループバンド
4. リアマッドガードロックサポートフィーチャー
5. バックル

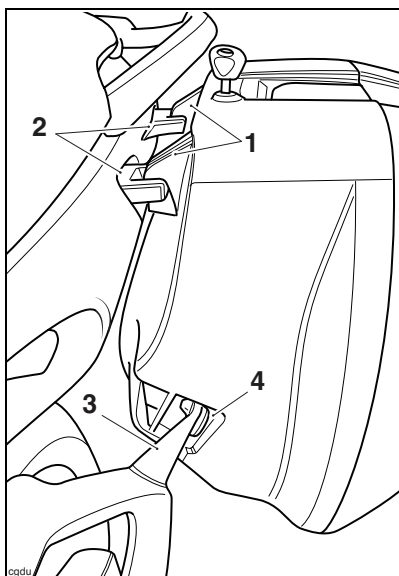
パニアシステム - Sprint GT

パニアの取り付け：

注記：

- 左右パニアの取り外しおよび取り付けは、同じ手順で行ないます。
- パニアのロックバレルには３つのマークが付いています。パニアの施錠、開蓋、解除を行う場合、キースロットをバレルの記号に合わせてください。

1. キースロット（図は LOCK ポジション）
2. ロックポジション記号
3. ロック解除ポジション記号
4. 解除ポジション記号

キーをロックに差し込みます。キーを RELEASE ポジションに回し、取っ手を目一杯持ち上げます。

1. ロック
2. 取っ手

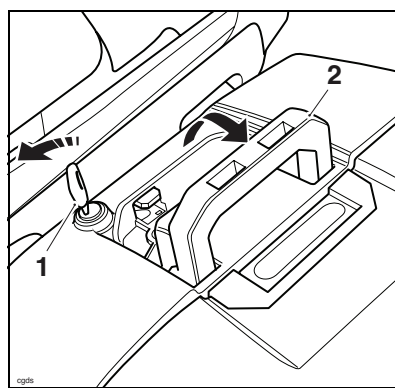
パニアをモーターバイクにセットして、パニア取り付けポイントにパニアの固定フックに入れます。

下側取り付けブラケットを、パニア前方に付いている位置決めカップにセットします

1. パニア固定フック
2. パニア取り付け部
3. 位置決めブラケット
4. 位置決めカップ

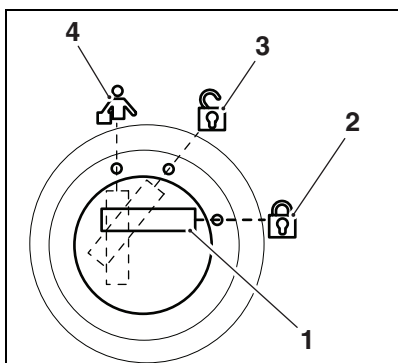
取っ手を目一杯閉位置に押しながら、キーをLOCKポジションに回して、パニアをレールにロックします。キーを抜き取ります。

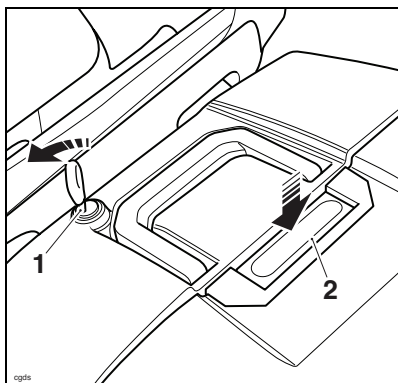
パニアの取り外し方：

注記：

- **左右パニアの取り外しおよび取り付けは、同じ手順で行ないます。**

1. ロック
2. 取っ手

パニアをパニア取り付け部からロック解除して取り外すには、キーをRELEASEポジションに回し、取っ手を目一杯持ち上げます。パニアを持ち上げてパニア取り付け部から外します。

パニアの操作

1. キースロット（図はLOCKポジション）
2. ロックポジション記号
3. ロック解除ポジション記号
4. 解除ポジション記号

パニアをロック解除して開けるには、キーを差し込んで UNLOCK ポジションに回し、ラッチプレートを押し下げます。すると、フタが開きます。

1. ロック
2. ラッチプレート

注意

パニアの蓋には2ヵ所のラッチポジションがあり、ファーストラッチポジションはセーフティキャッチとして機能します。ファーストラッチポジションでは、パニアが完璧に密閉しないので、セカンドラッチポジションで、パニアの蓋が完全に閉まっていることを必ず確認してください。パニアの蓋をこの位置にしてモーターバイクを運転すると、パニアに水が浸入したりホコリが混入したりして、パニアの中味に損傷をもたらす恐れがあります。

注記：

- **パニアの蓋のシールは優れた特性があるので、蓋をセカンドラッチポジションで閉めるには、相応の力が必要です。**

パニアを閉めてロックするには、セカンドが「カチッ」という音がするまで蓋を閉めていきます。キーを回して LOCK ポジションに合わせ、抜き取ります。

警告

パニアの最大安全積載量は7.5 kgです。この重量制限を絶対に超えないでください。超えた場合、モーターバイクは不安定になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあるからです。

⚠ 警告

このモーターバイクにセットした2個のパニアは、ペアでセットするように設計されています。パニアを1個だけセットしてモーターバイクを運転するようなことは、決してしないでください。パニアを1個だけ取り付けた状態でモーターバイクを運転すると、モーターバイクが不安定になり、バランスを崩して事故に至る恐れがあります。

⚠ 警告

モーターバイクにセットした2個のパニアは、安定性向上のため、工場出荷時に調整リンクバーをリンクしています。このリンクバーによって、モーターバイクに関係なくパニアを若干横方向に動かせます。

モーターバイクの安定性が損なわれるので、リンクバーを外したり調整したりしないでください。リンクバーを取り外したり、間違って調整した状態でモーターバイクを運転すると、モーターバイクが不安定になり、バランスを崩して事故に至る恐れがあります。

⚠ 警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。最大車両積載重量を絶対に超えないようにしてください。

- Sprint ST - 215 kg
- Sprint GT - 215 kg

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、装着されたアクセサリーおよび積載荷物の重量を合計したものです。

⚠ 警告

パニアを装着したり取り外したりした後、モーターバイクを交通のない安全な場所で運転し、新しいハンドリング特性になじむようにしてください。モーターバイクの新しい特性になじんでいない状態で運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は130 km/h より低減することを忘れないでください。

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

電動アクセサリー用ソケット

1. **電動アクセサリー用ソケット**

電動アクセサリー用ソケットは、モーターバイクの左側にあります。

このソケットは12 Vの電気を給電します。ソケットは 10 アンペアのヒューズで保護しているので、10 アンペア以上の電流が必要な器具のプラグをソケットに差し込まないでください。

このアクセサリー用ソケットに適したプラグは、最寄りの正規 Triumph ディーラーで販売されています。

慣らし運転

「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こなう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km：

- フルスロットルにしないでください。
- 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- 最高速度の４分の３を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで：

- エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方：

- エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦闘」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

安全運転

日常の安全点検

cbob

毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。

警告

毎日、走行する前にこれらの点検を行なうことを怠ると、モーターバイクに多大な損傷を与えるか、重大な人身事故を招く結果になりかねません。

点検：

燃料：タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（*34* ページ）。

エンジンオイル：オイルゲージ上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充。エンジンやオイルクーラーからの漏れがないか（*73* ページ）。

ドライブチェーン：ドライブチェーンの調整と潤滑注油が適正であるか（*82*ページ）。

タイヤ / ホイール：空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗状態、タイヤ/ホイールの損傷、パンクなど（*96*ページ）。

ナット、ボルト、固定部品： ステアリングとサスペンションの構成部品、アクス

ル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり / 傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

ステアリングの動き： スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルにひっかかりがないか（*91* ページ）。

ブレーキ： ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー / ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検（*86* ページ）。

ABS が装備されているモデル： 発車してからのスピードが時速10 km/hを超えた時点で、ABS 警告ランプが消灯したか確認してください（*55* ページ）。

ブレーキパッド： すべてのパッドに 1.5 mm 以上のライニングがなければならない（*86* ページ）。

ブレーキフルードレベル： ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか（*88* ページ）。

フロントフォーク： 動きがスムーズか。フォークシールからの漏れはないか（*93* ページ）。

スロットル： スロットルグリップの遊びが 2 – 3 mm あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか（*79* ページ）。

クラッチ： スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か（*81* ページ）。

クーラント： クーラントに漏れはないか。膨張タンク内のクーラントレベルを点検（エンジンが冷えている時に）（*76* ページ）。

電装品： すべてのライトとホーンが適切に機能するか（*33* ページ）。

エンジン停止： ストップスイッチでエンジンが停止するか（*52* ページ）。

スタンド： バネの張力で完全に上の位置まで戻るか。リターンスプリングが弱くないか、傷んでいないか（*37* ページ）。

モーターバイクの運転

目次

エンジンの停止

1. エンジンストップスイッチ
2. スターターボタン
3. ニュートラル表示灯
4. ON ポジション
5. イグニッションスイッチ

スロットルを完全に戻します。

ニュートラルを選びます。

したがって、イグニッションスイッチをオフにします。

ローギヤに入れます。

固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドかセンタースタンドで支えてください。

ステアリングをロックします。

⚠ 注意

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態でイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

エンジンの始動

エンジンストップスイッチがRUNポジションにあることを確認してください。

確実にギアをニュートラルに入れてください。

イグニッションスイッチをオンにします。

注記：

- **イグニッションスイッチをオンにすると、スピードメーターとタコメーターの針が、ゼロから最大までサッと上がって再びゼロに戻ります。計器警告ランプが点灯して直ぐに消えます（エンジンが始動するまで点灯している計器を除きます－*27* ページ参照）。エンジンを始動させるのに、針がゼロに戻るまで待つ必要はありません。**
- **厳寒時は、コールドスタートができるようにスロットルを半開きにします。エンジンがかかったら、閉じる位置に戻してください。**

クラッチレバーを切ります。

スロットルを全閉にした状態で、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。

警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

注意

スターターを5秒以上継続して作動させないでください。 スターターモーターが過熱してバッテリーが上がってしまうことがあるからです。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで15 秒の間隔を置いてください。

エンジンを長い間アイドル状態にしておかないでください。過熱に至る恐れがあり、エンジン損傷の原因となることがあるからです。

注意

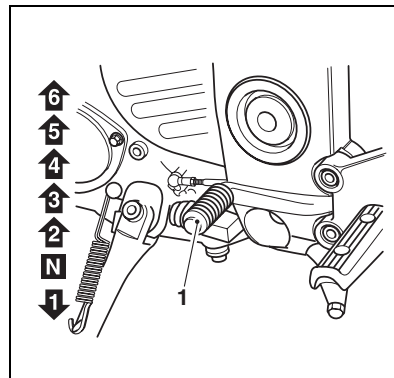
油圧低下警告灯は、エンジンが動き始めたらまもなく消えるはずです。

エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

- 本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下りていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。
- エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。

発車

クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開き、クラッチレバーをゆっくりつなげます。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。

ギアチェンジ

1. ギアチェンジペダル

クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

警告

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

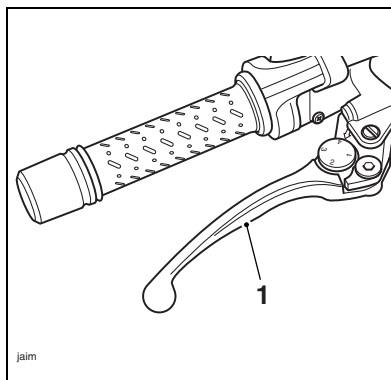
本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

注記：

- ギアチェンジの仕組みは　「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダルを１回動かす毎に、ギアは上か下の方向に１段ずつ切り換わる仕組みです。

警告

高速走行中に低速ギアに切り換えないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。エンジン速度を確実に落として、低速ギアへの切り換えを行なう必要があります。

ブレーキ操作

1. フロントブレーキレバー

警告

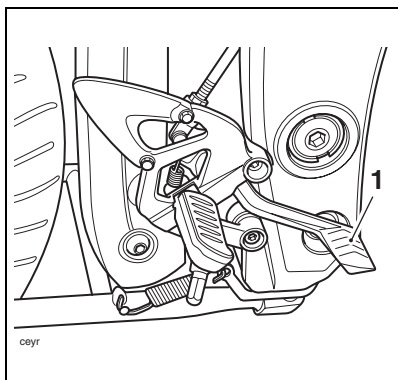
ブレーキをかける時は、以下の事を守ってください：

モーターバイクの速度を落とすためにクラッチを噛み合わせたままで、スロットルを完全に閉じてください。

モーターバイクが完全に停止した時、ギアはファーストに入っているよう、ギアを一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同時にかけてください。普通は、フロントブレーキはリアブレーキより少し強めにかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを完全に切ってください。エンストを起こさないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでください。モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こしかねません。

1. リアブレーキペダル

警告

急ブレーキをかける時は、ギアのシフトダウンは無視し、横滑りすることなく前後のブレーキを可能な限り強くかけることに集中してください。ライダーは、車の通らない所で急ブレーキのかけ方を練習しなくてはなりません。(以下と次ページの ABS 警告を参照)

Triumph は、ライダー全員に教習を受けることをお勧めします。教習では安全なブレーキ操作についてのアドバイスが受けられます。間違ったブレーキテクニックは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

警告

注意が散漫になるとバランスを崩して事故につながる恐れがあるため、(ABS の有無を問わず) ブレーキ操作、加速、コーナリング時に注意してください。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけると車輪がロックする恐れがあり、モーターバイクのバランスを崩して事故になりかねません (以下の ABS 警告を参照)。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくなめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。

⚠ 警告

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯するため、他の道路使用者は表示を誤解する恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

ABS (アンチ－ロックブレーキシステム) － Sprint GT のみ

⚠ 警告

ABSが装備されていると車輪のロックを防げるので、非常時や滑りやすい路面の走行時にブレーキシステムの威力が最大限に発揮されます。ABS のおかげで特定の状況下でも短距離でのブレーキ制動が可能になったとはいえ、そうした形でABSに頼るのは良いことではありません。

常に法定制限速度内で走行してください。

注意散漫な状態で決して運転をせず、天候、道路のコンディション、交通状況により、減速するべきときは減速してください。

コーナリングの時は注意してください。コーナーリングの最中にブレーキをかけると、ABS でモーターバイクの重量と速力を抑制できません。そのため、バランスを崩して事故になる恐れがあります。

同機種のモーターバイクであっても、ABSを装備したモーターバイクの方が長めのブレーキ間隔が必要となる場合もあります。

ABS 警告ランプ

ABS 機能が使えくなると、ABS インジケーターランプが点灯します。エンジンをスタートしてから時速 10 km/h に達するまで、ランプが点灯しているのが正常な状態です。不具合が発生しない限り、エンジンを再びスタートさせるまで再び点灯することはありません。

それ以外で走行中にインジケーターランプが点灯するのは、ABS に誤作動が生じたからであり、点検が必要です。

注記：

- **ブレーキレバーやペダルの普段にない感触や振動によって、ABS が作動したことにライダーが気づくのが普通です。ABS は統合ブレーキシステムではないので、フロントとリアブレーキとを同時に制動できず、レバーかペダル、場合によっては両方から振動が身体に伝わります。**
- **突然上り坂や下り坂になると、ABS が作動することがあります。**

警告

ABS が機能していないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動します。インジケーターランプが点灯したままの状態で、長く走行を続けないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

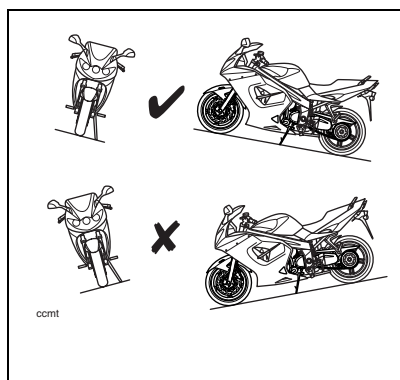
警告

モーターバイクのセンタースタンドを立てた状態で、リアホイールを高速で 30 秒以上回転させると ABS 警告ライトが点灯します。この反応は正常です。

イグニッションスイッチをオフにして、再びモーターバイクを始動すると、バイクが時速30 km/hに達するまで警告ライトが点灯しています。

警告

ABS コンピューターがフロントとリアホイールの相対速度を比較します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用した場合、ホイールスピードに悪影響を及ぼしてABS が作動しない恐れがあり、そのため普通なら ABS が作動する状況下でも、バランスを崩して事故を引き起こす可能性があります。

駐車

ニュートラルにしたら、OFF ポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターバイクの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。

斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。バイクが動くのを妨げるためにギアをファーストに入れます。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6° 以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

注記：

- 夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチをP（PARK）にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。

スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。 バッテリーが上がることがあるからです。

発進する前に、スタンドが完全に引っ込められているのを確認してください。

⚠ 警告

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所で駐車すると、モーターバイクが倒れて損傷したりケガをしたりします。

⚠ 警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

警告

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもたちがモータバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。

熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

高速走行の際の注意

警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

⚠ 警告

以下に列挙された事柄は極めて重要なので、絶対に軽視してはなりません。普通の速度で走行中は気づきもしないような問題が、高速走行時には大問題になりかねません。

一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整備されてきていることを確認してください。

ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎる部分もなく、スムーズに回転するか調べてください。コントロールケーブルがステアリングの邪魔にならないことを確認してください。

荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じてロックし、モーターバイクにしっかり固定してください。
パニアが均等に搭載されているか確認します。
モーターバイクが積載超過にならないようにします。

ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能しているか調べてください。

ABS を装備しているモデルの場合、時速 10 km/h を超えると ABS インジケーターランプが消えることで、ABS システムが機能していることをチェックしてください。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全走行には、タイヤのコンディションが良好であることが極めて大切です。タイヤの全体的な状態を調べ、適正空気圧になるまで空気を入れて（タイヤが冷えた状態で）、ホイールバランスを点検してください。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検とタイヤの安全性確保に関しては、整備の章と仕様の章の指示に従ってください。

燃料

高速走行すると燃料の消費量が増大するので、燃料は十分用意してください。

⚠ 注意

オーストラリア、香港、ニュージーランド、南アフリカを除く国の排気装置には、排気ガスの排出量を低減する触媒作用コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

エンジンオイル

エンジンオイルのレベルが適正であることを確かめます。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

クーラント

クーラントの液面が膨張タンクの上限ラインにきているか調べてください。(液面レベルは、必ずエンジンが冷えている時に点検します。)

電装品

ヘッドライト、テール / ブレーキライト、方向指示灯、ホーン等、すべてが適切に作動することを確かめてください。

その他

締め具はすべて堅くしまっているか目で点検します。

アクセサリーと積載条件

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にしてください。

警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量を絶対に超えないようにしてください。

- Sprint ST - 215 kg
- Sprint GT - 215 kg

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、装着されたアクセサリーおよび積載荷物の重量を合計したものです。

警告

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。照明器具の見やすさ、最低地上高、バンキング能力(バンク角のこと)、制御機能、軸間距離、ABS、フロントフォークの動き、四方の視界、その他のモーターバイクでの走行に関するもので、何ら問題のないことを確認してください。

警告

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は130 km/h より低減することを忘れないでください。

警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

警告

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性があると伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください。

- 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

⚠ 警告

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

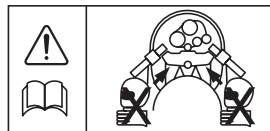
⚠ 警告

同乗者が乗っていると、モーターバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかなければなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてはなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモーターバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

どんな物であろうと、フレームと燃料タンクの間に保管しようとしてはなりません。これはステアリングのじゃまになる可能性があり、制御性を損なって事故につながることがあります。

ハンドルあるいはフロントフォークに重さが加わると、ステアリングアセンブリーのかさが増すため、ステアリングの制御性が損なわれて事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 警告

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

警告

タンデムシートまたはラック（Sprint GT モデルのラック）に小さな荷物を載せる場合、荷物の総重量が5 kg（Sprint GT モデルのシートとラックの組み合わせ）を超えてはならず、モーターバイクの制御性を損なうようにしてください。また、しっかりと固定して、モーターバイクの後部や脇からはみ出さないようにしてください。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

小さな荷物をリアシートやラック（Sprint GT モデル）に正しく積載したとしても、モーターバイクの最高速度は 130 km/h に落としてください。

注意

Sprint ST のみ：後部車体の上側に荷物を置いたり、立て掛けたりしないでください。

後部車体の上側に荷物を置いたり立て掛けたりすると、車体と排気管の間を塞いでしまうため、車体が加熱する恐れがあります。

整備と調整

目次

整備と調整

整備と調整

定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

警告

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph ディーラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

警告

整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動のモーターバイクは、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

整備内容	オドメータ上のキロ数または経過年数のいずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1 年	20,000 2 年	30,000 3 年	40,000 4 年
エンジンとオイルクーラー — 漏れ点検	日	•	•	•	•	•
エンジンオイル－交換	-	•	•	•	•	•
エンジンオイルフィルター－交換	-	•	•	•	•	•
バルブクリアランス－点検 / 調整	-			•		•
エアクリーナー－交換	-			•		•
オートスキャン - Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを行います。	-	•		•		•
エンジン ECM －内蔵 DTC の点検			•		•	
ABS ECM －内蔵 DTC の点検		•	•	•	•	•
スパークプラグ－点検	-		•		•	
スパークプラグ－交換	-			•		•
スロットルボディー－バランス調整	-		•	•	•	•
スロットルケーブル－点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
冷却装置－漏れ、擦り切れ、その他を点検	日	•	•	•	•	•
クーラントレベル－点検 / 調整	日	•	•		•	
クーラント－交換	-			•		•
燃料系統－漏れ、擦り切れ、その他を点検	日	•	•	•	•	•
ライト、計器類＆電装系統－点検	日	•	•	•	•	•
ステアリング－作動状態点検	日	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－点検 / 調整	-	•	•	•	•	•
ヘッドストックベアリング－潤滑	-			•		•
フォーク－漏れ / 作動状態点検	日	•	•	•	•	•
フォークオイル－交換	-					•

整備内容	オドメータ上のキロ数または経過年数のいずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1 年	20,000 2 年	30,000 3 年	40,000 4 年
ブレーキフルードレベルー点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキフルードー交換	2 年ごと					
ブレーキパッドー摩耗状態点検	日	•	•	•	•	•
ブレーキキャリパーーフルード漏れとピストンの焼き付き点検		•	•	•	•	•
ブレーキマスターシリンダーーフルード漏れ点検		•	•	•	•	•
ドライブチェーンー潤滑注油	300 km ごと					
ドライブチェーンー摩耗点検	800 km ごと					
ドライブチェーンのゆるみー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
ドライブラビングストリップー点検	-		•	•	•	•
ホイールベアリング - 摩耗 / 滑らかさのチェック			•	•	•	•
リアホイールベアリングー潤滑	-			•		•
ホイールー損傷がないか点検	日	•	•	•	•	•
タイヤの摩耗 / 損傷ー点検	日	•	•	•	•	•
タイヤ空気圧ー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
クラッチケーブルー点検 / 調整	日	•	•	•	•	•
スタンドー作動状態点検	日	•	•	•	•	•
セカンダリーエアインジェクションシステムー点検および清掃	-			•		•
セカンダリーエキゾーストからヘッダークランプボルトまでー点検 / 調整	-	•	•	•	•	•
締め具類ー締まり具合を目視点検	日	•	•	•	•	•
アクセサリーラックのスライディングキャリッジ - 正しく機能するかチェック		•	•	•	•	•
燃料と蒸発ロス * ホースー交換	-					•

* California でのみ装備されている蒸発システム

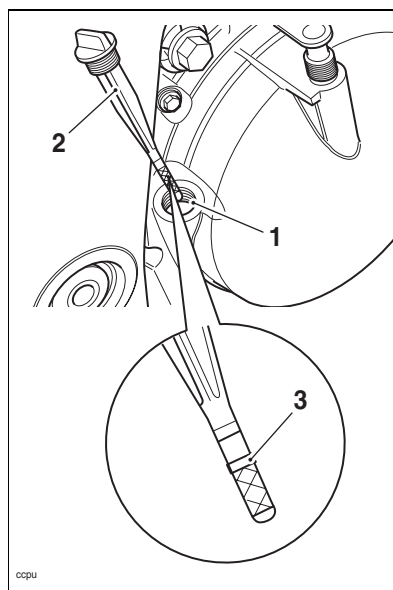
エンジンオイル

cbnz

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

警告

エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンまたはトランスミッションが焼付きを起こすと、突然制御不能に陥って事故を起こしかねません。

オイルレベルの点検

1. フィラー
2. フィラープラグ / オイルゲージ
3. 上限マーク

注記：

- エンジン内のオイルレベルが正確に表示されるのは、エンジンオイルが通常の運転温度であり、モーターバイクを（サイドスタンドではなく）センタースタンドで駐車し、フィラープラグ / ディップスティックが完全に入っている場合に限ります。

警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

注意

オイルが不足しているのにエンジンを回転させせると、エンジンを損傷させます。油圧低下インジケーターが点灯したままになったら、即座にエンジンを止め、原因を調べてください。

エンジンを始動し、約5分間空転させます。

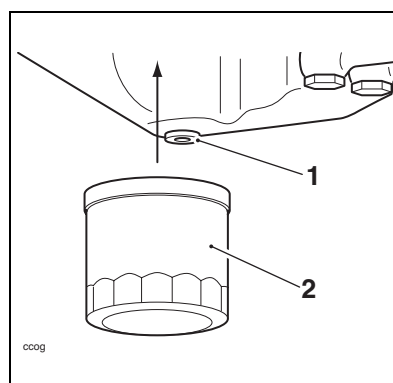
エンジンを止めてから、オイルが落ち着くまで3分間待ってください。

モーターバイクをセンタースタンドで駐車し、フィラープラグ / オイルゲージを取り外してブレードをきれいに拭き、完全にねじ込みます。

フィラープラグ/オイルゲージを取り外します。

オイルレベルは、フィラープラグ / オイルゲージの線で示されます。満タンの場合、オイルレベルはオイルゲージの上限マークと同じ高さになります。

オイルレベルが下限マークを下回った場合、適正レベルに達するまで少しずつオイルを補充していきます。適正レベルに達したら、フィラープラグ / ディプスティックを再びはめます。

オイルとオイルフィルターの交換

1. オイルドレンプラグ
2. オイルフィルター

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

警告

エンジンオイルに長く触れたり繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。その上、使用済みエンジンオイルには発ガン性の有害汚染物質が含まれています。必ず適切な防護服を着用し、使用済みオイルが皮膚に触れないようにしてください。

エンジンを十分に暖めてから止め、モーターバイクを平らな地面に真っ直ぐに立てます。

エンジンの下にオイルドレンパンを置きます。

オイルドレンプラグを取り外します。

警告

オイルは触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。

Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。オイルフィルターを環境にやさしい方法で処分してください。

オイルが完全に排出された後、新しいシーリングワッシャーをドレンプラグにはめます。プラグを取り付けて **25 Nm** で締め付けます。

新しいオイルフィルターのシーリングリングに新しいエンジンオイルを薄く塗りつけます。オイルフィルターをはめて **10 Nm** で締め付けます。

API SH(または上)および JASO MA 仕様を満たした、10 W/40 か 15 W/50 の半合成や完全合成のエンジンオイルを、オイルタンクの上限マークに達するまで補充してください。

エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

注意

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう 30 秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。

注意

エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転しているのにこのランプが消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

エンジンが始動するとまもなく油圧低下警告灯が消えることを確認します。

イグニッションを切り、前述の要領でオイルレベルを点検し、オイルゲージ上の上限と下限レベルを示す線の間に液面がくるようにオイルを補充します。

オイルの仕様と等級

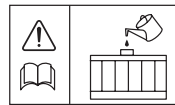
Triumph の高性能燃料噴射式エンジンは、API SH(または上)及び JASO MA 仕様を満たした 10 W/40 又は 15 W/50 の半合成又は完全合成のエンジンオイル用に設計したエンジンです。

エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。

鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。

使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済みオイルフィルターを普通のごみと一緒に置かないでください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

冷却装置

効率的にエンジンを冷やすには、毎日モーターバイクに乗る前にクーラントレベルを点検し、液面が低くなっていたら補充してください。

注記：

- 年間を通じて、ハイブリッド有機酸テクノロジー（ハイブリッドOATまたはHOAT）クーラントを冷却装置に注入した状態で、モーターバイクを工場より出荷しています。色はグリーンで 50%濃度のエチレングリコール基の凍結防止剤を含有し、凝固点が-35°C です。

腐食防止剤

冷却装置を腐食から護るために、クーラントに腐食防止剤を入れることが極めて重要です。

腐食防止剤の入っているクーラントを使わなければ、冷却装置のウォータージャケットやラジエターに錆びや湯垢がたまります。これはクーラントの通路を塞いで、冷却装置の能率を著しく低下させます。

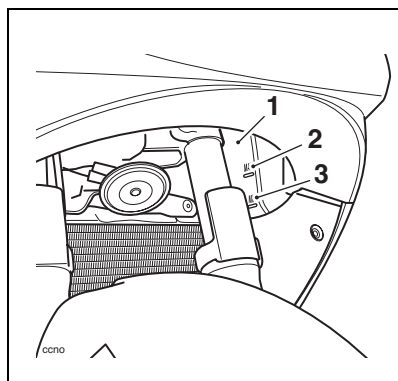
警告

アルミニウムエンジンとラジエターに適した腐食防止剤と不凍剤の入った、HD4XハイブリッドOATクーラントを使ってください。必ず、メーカーの指示に従って不凍剤を使ってください。

不凍剤と腐食防止剤が混ざったミックスクーラントには、人体に有害な有毒物質が含まれています。不凍剤やモーターバイクのクーラントは、絶対に飲み込まないでください。

注記：

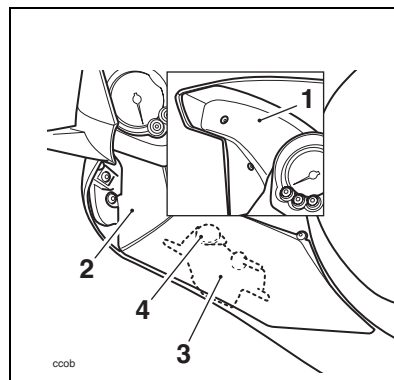
- Triumphが供給するHD4XハイブリッドOATクーラントは事前に混合してあるので、冷却装置への補充や注ぎ足し時に希釈する必要はありません。

クーラントレベルの点検

1. 膨張タンク
2. MAX（上限）マーク
3. MIN （下限）マーク

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。膨張タンクは、フロントフェアリング左側の取り外し可能なパネル下にあります。

フロントフェアリングの中央にある開口部から見上げるような形で、膨張タンク内のクーラントレベルをチェックしてください。また、上の方から左側を見下ろして調べることも可能です。

膨張タンク内のクーラントレベルを調べます。クーラントレベルは、MAX と MIN マークの間になければなりません。クーラントレベルが下限マークより下にある場合は、調整する必要があります。

クーラントレベルの調整

1. 上側インフィルパネル
2. 下側インフィルパネル
3. 膨張タンク
4. タンクキャップ

⚠ 警告

エンジンが高温になっている時は、膨張タンクキャップやラジエターキャップを外さないでください。エンジンが暖まっていると、ラジエター内のクーラントの温度が高く、加圧状態になっています。高温、高圧のクーラントに触れると、火傷をしたり皮膚を傷めたりすることがあります。

エンジンが冷めるのを待ちます。

2個の固定具を外し、上側インフィルパネルバヨネットをグロメットから緩め、慎重にインフィルパネルを外します。

固定具を外し、慎重に下側（フェアリング）インフィルパネルを外し、膨張タンクをさらします

膨張タンクからキャップを外し、補給口から液面レベルがMAXマークに達するまで混合冷却液を補充します。キャップを再び取り付けます。

注記：

- **クーラントの過熱が原因でクーラントレベルを点検するのであれば、ラジエター内の液面レベルも点検し、必要があれば補充してください。**
- **緊急で止むをえない場合には、冷却装置に希釈水を補充しても構いません。ただし、なるべく早い機会にクーラントを抜き取り、HD4X ハイブリッド OAT クーラントを補充してください。**

⚠ 注意

冷却装置に硬水を使用すると、エンジンやラジエターに酸化膜が蓄積して、冷却装置の効率を著しく低下させます。冷却装置の効率が低下すると、エンジンを過熱させて多大な損傷を与えることになりかねません。

上側インフィルパネルバヨネット固定具を、下側インフィルパネル黒メットに固定して、慎重にインフィルパネルを再取り付けします。固定具を 5 Nm で締めつけます。

クーラントの交換

定期整備表の指示に従い、正規 Triumph ディーラーに依頼してクーラントに交換してもらってください。

ラジエターとホース

定期整備表の指示に従って、ラジエターホースに亀裂や劣化がないか、ホースクリップが硬くなっていないか点検してください。欠陥のあるものは、正規 Triumph ディーラーに付け替えてもらってください。

ラジエターグリルとフィンに昆虫や枯葉、泥などが詰まっていないか点検してください。低圧の放水で詰まっているゴミを洗い流してください。

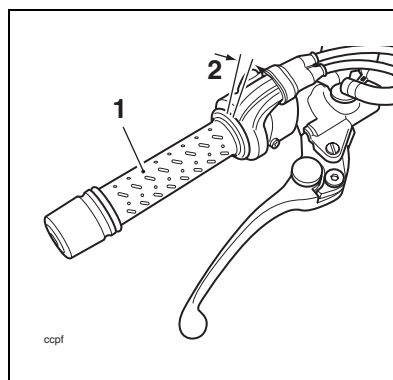
⚠ 警告

ファンは、エンジンが回転している間は、自動的に作動します。常に手や衣服をファンから遠ざけておいてください。回転中のファンに触れると負傷する可能性があるからです。

注意

洗車場にある高圧ウォータースプレーや家庭用の加圧洗浄機を使うと、ラジエターフィンに損傷を与えて漏れやラジエターの能力低下を引き起こす可能性があります。

承認されていないアクセサリーをラジエターの前や冷却ファンの後ろに装備して、ラジエターを通る空気の流れを遮断したり、そらせたりしないでください。ラジエターの空気の流れを妨げると、過熱してエンジンに損傷を与える恐れがあります。

スロットルコントロール

1. スロットルグリップ
2. 2 – 3 mm

警告

スロットルグリップは、スロットルボディー内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆるすぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行なってください。

⚠ 警告

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph ディーラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかったり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

点検

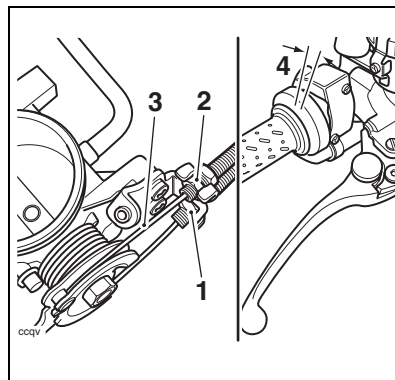
⚠ 警告

調整や配線が不適当になされていたり、滑らかに動かないあるいは損傷しているスロットルケーブルを装着したモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰することがあります。

不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph ディーラーにスロットルを点検、調整してもらってください。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規 Triumph ディーラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。

スロットルグリップを前後に軽く回した時に、スロットルグリップに 2 - 3 mm の遊びがあるかを調べてください。

遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph ディーラーにしてもらうことをお勧めします。しかしながら、非常時の場合は、以下の手順でスロットルを調整できます：

1. オープニングケーブルアジャスター
2. クロージングケーブルアジャスター
3. クロージングケーブルー遊び測定ポイント
4. オープニングケーブルー遊び測定ポイント

調整

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

燃料タンクとエアボックスを取り外します。

「オープニング」ケーブルアジャスタのロックナットをゆるめます。

ツイストグリップ側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、それぞれの方向に等分に調節されるよう回します。

ケーブルのスロットルボディー側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、ツイストグリップに 2 - 3 mm の遊びをもたせるために回します。ロックナットを締め付けます。

ケーブルのツイストグリップ側に近いアジャスターを使い、2 - 3 mm の遊びをもたせるのに必要な微調整を行なってください。ロックナットを締め付けます。

スロットルを完全に絞った状態で、スロットルボディーに取り付けられているスロットルカムのところで、「クロージング」ケーブルに 2 - 3 mm の遊びがあることを確かめます。必要があれば、「オープニング」ケーブルと同じ要領で 2 - 3 mm の遊びをもたせるように調整してください。

⚠ 警告

ロックナットが緩んでいるとスロットルが動かなくなる恐れがあるので、ケーブルのアジャスターロックナットを確実に締め付けてください。

スロットルの調整が不適切で、ひっかかったり膠着状態になると、バイクの制御性が損なわれて事故を起こす場合があります。

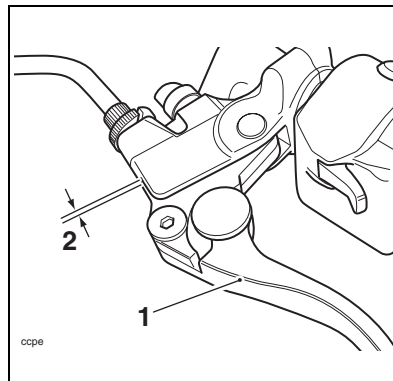
燃料タンクとエアボックスを再び取り付けます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

シートを元に戻します。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。

走行を再開する前に、最寄りの正規 Triumphディーラーまで慎重にバイクを走らせ、そこでスロットルシステムを徹底的に調べてもらってください。

クラッチ

1. クラッチレバー
2. 2 - 3 mm

本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大き過ぎると、クラッチが完全に切れない恐れがあります。そうなると、ギヤチェンジやニュートラルに入れる際に困難が生じることがあります。これは、エンストやモーターバイクを制御困難な状態に陥らせる原因になりかねません。逆に、クラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチが完全にかみ合わずに、スリップを招く恐れがあります。これは、クラッチの性能を低下させ、磨耗を早める原因になることがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

点検

レバーのところでクラッチレバーに2 - 3 mmの遊びがあるか調べてください。

遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

調整

クラッチケーブルのレバー側のきざみ付きロックナットを緩め、クラッチレバーの遊びの大きさが適正になるまでアジャスタースリーブを回します。

きざみ付きロックナットをクラッチレバーアッセンブリに嵌めて締めます。

レバーアジャスターで適切な調整ができない場合は、ケーブルの下端にあるケーブルアジャスターを使ってください。

アジャスターロックナットを緩めます。

クラッチレバーのところに2 - 3 mmの遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。

ロックナットを締め付けます。

ドライブチェーン

ドライブチェーンは、安全走行のためと過度の磨耗防止のために、定期整備表の求めるところに従って定期的に点検、調整、潤滑注油しなければなりません。塩分や砂が多いといった極端にコンディションの悪い道路の場合、点検、調整、注油を通常より頻繁に行なってください。

ひどく磨耗していたり、(きつ過ぎ、ゆる過ぎのいずれでも)調整が適切でないチェーンは、スプロケットから外れたり、壊れたりする恐れがあります。磨耗や損傷したチェーンの場合、速やかに正規 Triumph ディーラーで供給している純正 Triumph パーツに替えてください。

⚠ 警告

ゆるい、磨耗している、壊れている、スプロケットから飛び出す、このようなチェーンは、エンジンスプロケットに絡まったり後輪をロックする場合があります。

エンジンスプロケットに絡まったチェーンは、ライダーを負傷させることがあり、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

同様に、後輪が動かなくなると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

チェーンの注油

チェーンは 300 km 走行する毎に、あるいは雨天時や濡れた路上での走行後は、潤滑注油が必要です。また、チェーンが乾いている時も常に注油してください。

仕様の章で推奨されている、特別のチェーン潤滑剤を使用してください。

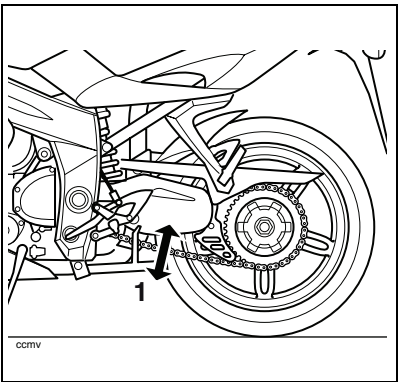
ローラー両側に潤滑油を注油し、8 時間が経つまではモーターバイクに乗らないでください（一晩置くのが理想的）。そうすることにより、チェーン O リングなどにオイルがゆきわたります。

乗る前に、余分なオイルを拭き取ります。

チェーンの汚れが特にひどい時は、まず汚れを落とし、それから前述の要領で注油します。

注意

チェーン系コンポーネントを損傷するので、チェーンの汚れ落としに加圧洗浄機を使わないでください。

チェーンのたるみ点検

1. 最大ムーブメントポジション

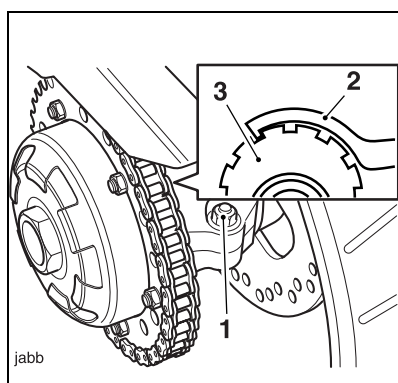
警告

作業を開始する前に、モーターバイクが安定しており、適切に支えられていることを確かめてください。作業者をケガから守り、モーターバイクが損傷するのを防ぎます。

平らな場所にモーターバイクを置き、積載せずに真っ直ぐ立てます。

モーターバイクを押してリアホイールを回転させ、チェーンが最もきつくなるポイントを見つけ、2 枚のスプロケットの中間でたるみを測定します。

ドライブチェーンのたるみは、許容範囲でなければなりません。

モデル	仕様
Sprint ST	25 - 35 mm
Sprint GT	26 - 38 mm

チェーンのたるみ調整

1. アジャスタークランプボルト
2. C型スパナ
3. エキセントリックアジャスター

アジャスタクランプボルトをゆるめます。

ツールキットに入っている C 型スパナを使って、ドライブチェーンのたるみが適度になるまでリアハブ/エキセントリックアジャスタを回します(緩める場合は時計回り、張る場合は反時計回り)。

クランプボルトを 55 Nm で締め付けます。

チェーンの調整点検を繰り返します。必要な場合は再調整します。

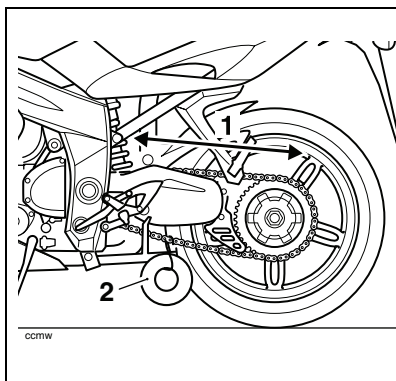
警告

リアハブ/エキセントリックアジャスタクランプボルトが緩んだ状態でモーターバイクを運転すると、安定性と操縦性が損なわれる可能性があります。安定性と操縦性が損なわれると、制御しきれなくなって事故につながる恐れがあります。

リアブレーキの効き具合を調べてください。

警告

ブレーキに欠陥のある状態でモーターバイクを運転するのは危険です。走行を再開する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検修理してもらってください。点検修理をしなかった場合、ブレーキ制動が甘くなり、バランスを崩して事故を引き起こしかねません。

チェーンとスプロケットの磨耗点検

1. 20 環分を測定
2. おもり

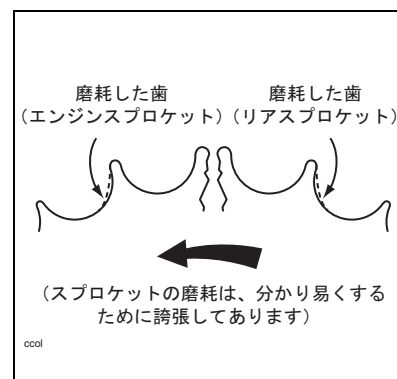
チェーンガードを取り外します。

チェーンに 10 – 20 kg のおもりを吊り下げて、チェーンを張ります。

1 番目のピンの中心から 21 番目のピンの中心まで、20 環分のチェーンの直線部分の長さを測ってください。チェーンは不均等に磨耗していることがあるため、数カ所測定してください。

長さが使用限度である 321 mm を超えていた場合、チェーンは交換しなければなりません。

リアホイールを回転させ、ドライブチェーンのローラーに損傷がないか、ピンや環が緩んでいないか点検してください。

スプロケットの歯が不揃いになっていないか、過度に磨耗していないか、歯が欠けていないかといったことも点検してください。

異常があった場合、最寄りの正規 Triumph ディーラーにドライブチェーンやスプロケットを交換してもらってください。

チェーンガードを再装備します。

警告

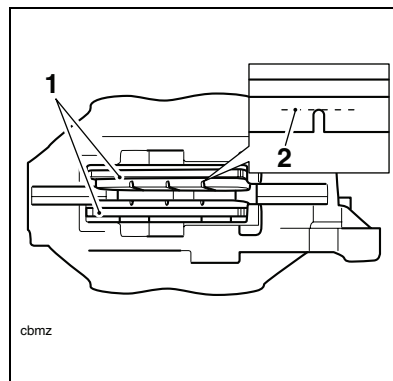
認定されていないチェーンを使用すると、チェーンの破損やスプロケットから飛び出す原因となる場合があります。

Triumphパーツカタログに載っている純正Triumph供給チェーンを使ってください。

チェーンのメンテナンスは絶対に怠らないでください。取り付けは正規Triumphディーラーに実施してもらってください。

> **⚠ 注意**
>
> スプロケットの磨耗に気づいた時は必ず、スプロケットとドライブチェーンを一緒に交換してください。
>
> チェーンも一緒に交換しないで、磨耗したスプロケットだけを交換すると、新しいスプロケットの耐久性を損なうことがあります。

ブレーキ

ブレーキの磨耗点検

1. ブレーキパッド
2. 厚さの下限ライン

ブレーキパッドを定期整備表に基づいて点検し、許容範囲を超えて摩耗していたら交換してください。

フロント又はリアブレーキのいずれかのパッドのライニング厚さが 1.5 mm 以下になっていたら、つまり、パッドが溝の底まで磨耗していたら、そのホイールのパッドを全部交換してください。

新しいブレーキパッドとディスクでブレーキング

交換用ブレーキディスクとブレーキパッドをモーターバイクに取り付けた後、動作の最適化とディスクとパッドの長寿命のため、一定期間にわたって使い慣らしを行うことを奨励します。新ブレーキパッドとディスクの奨励する使い慣らし距離は、300 km です。

新ブレーキディスクとパッドを取り付けたら、慣らし運転中は急ブレーキを避け、

慎重に運転し、車間距離を空けてください。

警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合、同じホイールにキャリパーが２つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッドを全部交換してください。

パッドを個々に交換すると、制動効率が低下し、事故を招く恐れがあります。

ブレーキパッドを交換した直後は、新しいパッドが「よく馴れる」まで、慎重に運転してください。

ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとブレーキパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの動きに影響を及ぼしません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

警告

ブレーキをかけた時に、ブレーキレバーやペダルがソフトに感じられたり、あるいはレバー/ペダルの遊びが大きすぎる場合、ブレーキパイプに空気が入っているか、ブレーキに欠陥がある恐れがあります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。必ず、走行前に最寄りの正規Triumphディーラーに故障を修理してもらってください。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

ディスクブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。仕様の章で推奨されているように、DOT 4のブレーキフルードだけを使ってください。ブレーキフルードに水分やその他の汚染物質が混入した場合、又はその疑いがある場合も、ブレーキフルードを交換する必要があります。

警告

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていなかったり、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。

故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

警告

ABSが機能しないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動し続す。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

スピードを落とし、インジケータランプが点灯したままの状態で必要以上に走行しないでください。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

警告

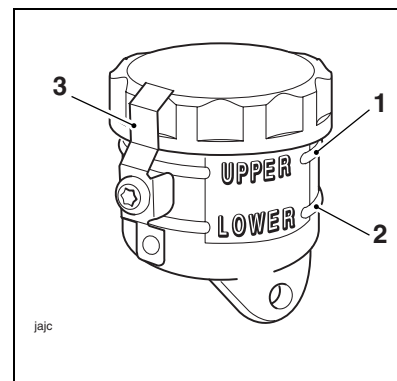
欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

注記：

- ABSが装備されたモデルの場合、ブレーキシステムを修理するには特殊な道具が必要です。ブレーキフルードの交換や油圧システムの整備が必要な場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにご連絡ください。

ブレーキフルードのレベル点検と調整

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、アッパーとロワーの間にあることが必要です(リザーバは水平の状態であること)。

フロントブレーキ

1. フロントブレーキフルードリザーバ、上限ライン
2. 下限ライン
3. 安全クリップ

安全クリップを取り外します。

リザーバカバーを取り外します。

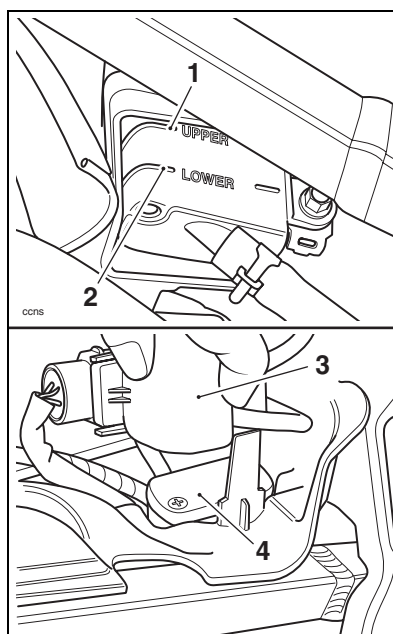
密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。

ダイアフラムシールが適切に取り付けられていることを確かめ、タンクカバーを再度取り付けます。

安全クリップを取り付けます。

⚠ 警告

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく下がっていた場合は、走行前に、最寄りの正規Triumphディーラーに相談し、アドバイスを受けてください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。

リアブレーキ - Sprint ST

1. 上限ライン
2. 下限ライン
3. スタータソレノイド / メインヒューズアッセンブリ
4. リアブレーキフルードリザーバ

レベルの点検

シートを外さずに、リアブレーキのフルードレベルを点検できます。モーターバイクの右側、シート下の中間排気管の前方から、リザーバーが見えます。

レベルの調整

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

スタータソレノイドとメインヒューズは、ゴム製の台に取り付けられています。この台は、リアブレーキフルードリザーバのフィラーキャップの上に取り付けられています。

フィラーキャップで作業を行うには、スタータソレノイド/メインヒューズアッセンブリをゴムの台ごと引き離します。

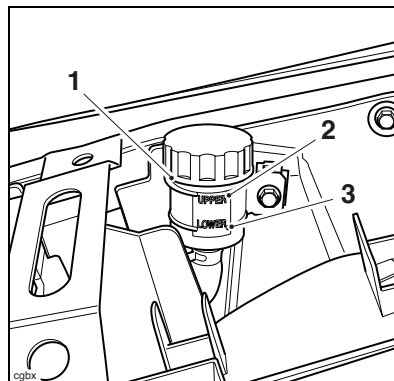
リザーバキャップを取り外してください。密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでリザーバーに補充してください。

ダイアフラムシールが正しく取り付けられていることを確認し、リザーバキャップを取り付けます。

スタータソレノイド/メインヒューズアッセンブリを元に戻します。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

シートを再装着します。

リアブレーキ - Sprint GT

1. リアブレーキフルードリザーバ
2. 上限ライン
3. 下限ライン

レベル点検と調整

シートを取り外します。

リザーバキャップを取り外してください。密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでリザーバーに補充してください。

ダイアフラムシールが正しく取り付けられていることを確認し、リザーバキャップを取り付けます。

シートを再装着します。

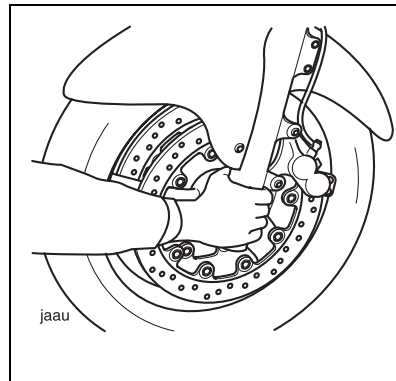
ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。イグニッションを ON ポジションにした状態でフロントブレーキレバーを引いたり、リアブレーキペダルを踏んだりしてもブレーキライトが点灯しない場合、正規 Triumphディーラーに不具合の点検と修理を依頼してください。

警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

ステアリング / ホイールベアリング

ステアリングの点検

定期整備表に従って、ヘッドストック (ステアリング)ベアリングの状態の点検と潤滑油の注油を行なってください。

注記：

- ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。

警告

点検中にモーターバイクが倒れて負傷することのないように、モーターバイクがしっかりと適切な支えの上に固定されていることを確認してください。それぞれのホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になり、支えから落下して怪我のもととなりかねません。

支えのブロックが、サンプに損傷を与えない場所に置かれていることを確かめてください。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの前に立ってフロントフォークの下側を持ち、前後に動かしてみます。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに遊びがある場合は、運転する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検と、あれば故障の修理を依頼してください。

警告

調整が不適切だったり、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクのコントロールが失われ、事故を引き起こしかねません。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

ホイールベアリングの点検

フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの横に立って、フロントホイールの上部を静かに左右にゆすります。

走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumphディーラーに依頼してください。

ジャッキの位置を変え、リアホイールも同じ手順で点検します。

警告

フロント又はリアホイールベアリングに磨耗や損傷のある状態で運転することは危険であり、操縦性と安定性が損なわれて事故につながる恐れがあります。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

フロントサスペンション

フロントフォークの点検

それぞれのフォークに損傷のしるしがないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。
- 動きが滑らかでなく、過度な硬さが感じられる場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。
- サスペンションの動きは、調整の設定に左右されます。

警告

サスペンションに欠陥や損傷のある状態でモーターバイクを運転することは危険であり、コントロールが失われて事故につながりかねません。

警告

サスペンションユニットは、どの部分であっても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

サスペンション設定値の一覧表

注記：

- 表は目安に過ぎません。ライダーの体重や好みにより、設定条件は変わります。サスペンション調整法についての指示は、次ページを参照してください。

Sprint ST

積載状態	フロント	リア	
	スプリングプリロード †	伸側減衰 *	スプリングプリロード ‡
単独走行	3	1.5	20
ライダーと同乗者、またはライダーと荷物	3	1.0	10
運転者、同乗者、荷物	3	0.5	0

† フォークキャブ上に見える、アジャスターリング
* アジャスターを外した状態から、ねじ込んだ数（懸命に）
‡ アジャスタを完全にねじ込んだ状態からカチッと音を立てて回し戻した数

Sprint GT

積載状態	フロント	リア	
	スプリングプリロード †	伸側減衰 *	スプリングプリロード ‡
単独走行	3	1.0	30
ライダーと同乗者、またはライダーと荷物	3	0.25	20
運転者、同乗者、荷物	3	0.25	0

† フォークキャブ上に見える、アジャスターリング
* アジャスターを外した状態から、ねじ込んだ数（懸命に）
‡ アジャスタを完全にねじ込んだ状態からカチッと音を立てて回し戻した数

フロントサスペンションの設定

サスペンションを標準設定にすれば、通常の単独走行の時に快適な乗り心地と優れたハンドリング特性をもたらします。本表に記載されているのは、フロントとリアサスペンションの目安となる設定値です。

警告

フロントとリアサスペンションの間に適当なバランスが保たれていることを確認してください。サスペンションの不均衡は、操縦特性に著しい変化をもたらす可能性があり、バイクを制御しきれなくなって事故を起こす場合があります。更に詳しいことは前ページの表を参照するか、最寄りのディーラーにご相談ください。

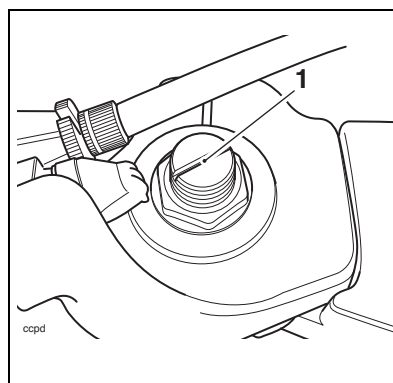
フロントサスペンションはプリロードのみ調整可能です。スプリングプリロードアジャスターは、両フォークの頂部にあります。

警告

アジャスターとフォークの設定値を同一にしてください。左右の設定値が異なると、ハンドリング特性に著しい変化が生じ、バランスを崩して事故を引き起こす恐れがあります。

注記：

- フォークトップキャップ上から見えるアジャスターリング数として、フロントサスペンションの設定値を測定します。

スプリングプリロードの調整

1. スプリングプリロードアジャスター

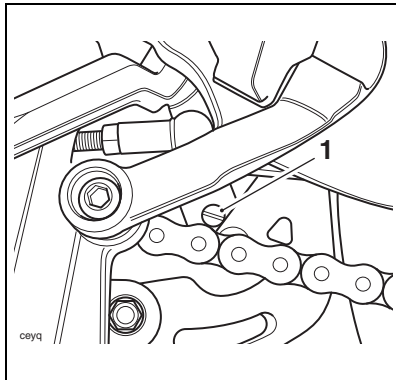
スプリングプリロードを変更するにあたり、プリロードを大きくするにはアジャスターを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。必ず、両方のフォーク上に見える目盛り線が同数になるように、プリロードアジャスターを設定してください。

注記：

- 本モーターバイクは、スプリングプリロードを3個のアジャスターリングが、フォークトップキャップ上から見える状態にセットして、工場出荷されます。

リアサスペンションの調整

リアサスペンションユニットは、圧側減衰とスプリングプリロードの両方が調整可能です。

伸側減衰の調整

1. 伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターは、モーターバイクの左側、リアサスペンションユニットの下端にあります。

伸側減衰の設定を変えるにあたり、大きくするにはアジャスターを時計回りに回し、小さくするには反時計回りに回します。

注記：

- この設定値は、アジャスタを完全に外した状態から、ねじ込んだ回転数で計られています（懸命に）。
- モーターバイクの伸側減衰アジャスタは、出荷時には外した状態から、1.5 回転ねじ込んであります（懸命に）。

スプリングプリロードの調整 – Sprint ST

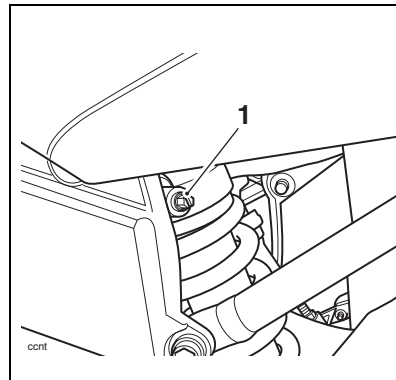
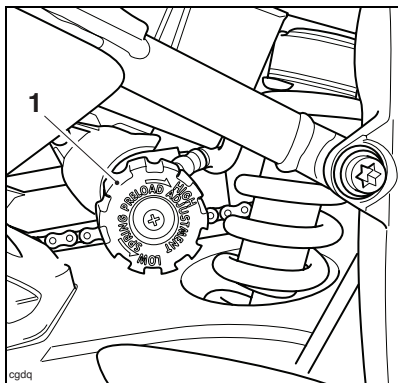
1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードアジャスタは、モーターバイク左側のリアサスペンションユニットの頂部にあります。

スプリングプリロードの設定を変えるにあたり、大きくするにはスロット付きアジャスターを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。

注記：

- この設定値は、アジャスタを完全に回し切った位置から回し戻した「カチッ」という音の数で計られています。
- モーターバイクのスプリングプリロードは、出荷時には完全に回し切った位置から 20 回の「カチッ」音数に設定してあります。

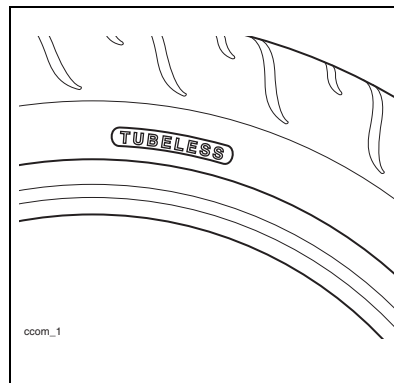
スプリングプリロードの調整 – Sprint GT

1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードアジャスターは、モーターバイクの右側、スイングアームの上にあります。

スプリングプリロードの設定を変えるにあたり、大きくするにはスロット付きアジャスターを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。

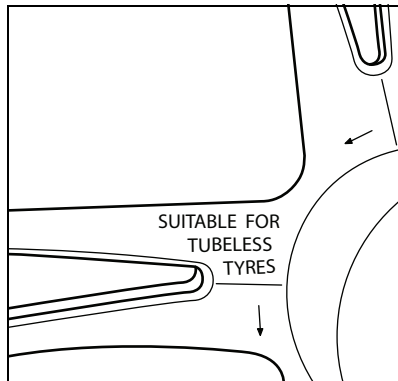
注記：

- **この設定値は、アジャスタを完全に回し切った位置から回し戻した回転数で計られています。**
- **モーターバイクのスプリングプリロードは、出荷時には完全に回し切った位置から 30 回の「カチッ」音数に設定してあります。**

タイヤ

典型的なタイヤマーク

本モーターバイクには、チューブレスタイヤ、バルブ、ホイールリムが装備されています。「TUBELESS（チューブレス）」のマークのついたタイヤと、リムに「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES（チューブレスタイヤに適合）」のマークのついたチューブレスバルブのみを使用してください。

タイヤ空気圧

適切なタイヤ空気圧は、最高の安定性と快適な乗り心地を提供し、タイヤの寿命を延ばします。タイヤ空気圧の点検は、必ず走行前のタイヤが冷えている時に行なってください。タイヤ空気圧は毎日点検し、必要があれば調整してください。適切な空気圧の詳細については、仕様の章を参照してください。

ホイールマーク

警告

タイヤの空気圧が適当でないと、トレッドが異常に磨耗し安定性に問題が生じて、コントロールが失われ、事故につながる恐れがあります。

空気圧が低すぎると、タイヤがスリップしたり、リムから外れる結果になりかねません。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗を早めることがあります。

どちらの状態も危険です。バイクが制御不能に陥って事故を引き起こす危険があるからです。

タイヤの磨耗

トレッドが磨耗するにつれて、タイヤはパンクしたり故障をおこしやすくなります。タイヤの問題の 90%は、トレッドの寿命が尽きる前の 10%（90%磨耗）の期間に発生していると推定されます。したがって、トレッドの許容深度ギリギリまでタイヤを使用しないでください。

トレッドの推奨最小深度

定期整備表に従って、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下の表に記されている許容最小限度を超えて磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

時速 130 km/h 以下	2 mm
130 km/h 以上	リア 3 mm フロント 2 mm

警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

> **⚠ 警告**
>
> 本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

> **⚠ 警告**
>
> 過度に磨耗したタイヤで走行することは危険であり、トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼします。そのため、制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。
>
> チューブレスタイヤがパンクした場合、空気は極めてゆっくり漏れるのが普通です。パンクしていないか、常に念入りに調べてください。タイヤに切り傷がないか、釘や尖ったものが刺さっていないか調べてください。パンクや損傷のあるタイヤで運転すると、モーターバイクの安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、コントロールが失われて事故につながることがあります。
>
> リムにへこみや変形がないか調べてください。損傷や欠陥のあるホイールやタイヤでの走行は危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故に帰する恐れがあります。
>
> タイヤの交換やタイヤの安全点検については、必ず最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

タイヤの交換

Triumph 製のモーターバイクはすべて、モデル毎に最適なタイヤを組み合わせるために、様々な走行条件で厳密にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、承認されている組み合わせにふさわしい承認タイヤを使うようにすることが極めて大切です。承認されていないタイヤを装備したり、承認タイヤを承認されていない組み合わせで使うことは、モーターバイクを不安定な状態に陥らせ、事故を招く恐れがあります。ABS が装備されたモデルの場合、未承認のタイヤを装備したために生じたホイール速度の違いは、ABS コンピューターに悪影響を及ぼす恐れがあります。

承認されているタイヤの組み合わせに関する詳細は、仕様の章を参照してください。タイヤの取り付けとバランス調整は、安全で効果的な取り付けを確実にするために、必ず、必要なトレーニングを受け技能を有する、正規 Triumph ディーラーにしてもらってください。

> **⚠ 警告**
>
> ABSが装備されているモデルの場合、ABSコンピューターがフロントとリアホイールの相対速度を比較します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用した場合、ホイールスピードに悪影響を及ぼしてABSが作動しない恐れがあり、そのため普通なら ABS が作動する状況下でも、バランスを崩して事故を引き起こす可能性があります。

警告

タイヤがパンクした場合は、交換しなければなりません。パンクしたタイヤを交換しない、あるいは修繕したタイヤで走行すると、不安定な状態になり、制御不能に陥って事故につながることがあります。

警告

チューブレスリムにチューブタイプのタイヤを取り付けないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの収縮が早まってコントロール不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤが収縮して、バイクのコントロールが失われ事故を起こす恐れがあります。

警告

カーブに突き当たったりして、タイヤの損傷の可能性がある場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーに依頼して、タイヤの内側と外側の両方を点検してもらってください。タイヤの損傷は、必ずしも外側からは見えないことに留意してください。損傷したタイヤを付けたままでモーターバイクを運転すると、制御性が損なわれて事故を招く場合があります。

警告

タイヤの交換が必要な時は、最寄りの正規Triumphディーラーに相談してください。承認リストの中から正しい組み合わせのタイヤが選択されるよう手筈を整え、タイヤメーカーの指示に従って取り付けを致します。

タイヤを交換した時は、リムに馴染むまで余裕をみてください（約 24 時間）。馴染むまでの間は、慎重に運転してください。タイヤがぴったりはまっていないと、制御不能に陥って事故を引き起こすことがあります。

新しいタイヤは、最初の内は、摩耗したタイヤとは異なるハンドリング特性を発揮します。ライダーは、新しいハンドリング特性に慣れるまで、十分な走行距離（約 160 km）を見込んでおく必要があります。

取り付けてから 24 時間後に、タイヤ圧を調べて調整し、タイヤが正しくはめ込まれているか点検してください。必要に応じて修正してください。

取り付け後 160 km 走行した時点で、同様の点検と調整を行なう必要があります。

警告

不適切なタイヤの取り付け、タイヤ空気圧の調整の不備、ハンドリング特性に慣れていないといった状態の時にモーターバイクを運転すると、コントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモメーター上で使用されてきたタイヤは、損傷を受けていることがあります。タイヤは、外観を見ただけでは損傷が分からないことがあります。そのような使い方をした後のタイヤは交換しなければなりません。傷んだタイヤを使い続けると不安定な状態になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあるからです。

⚠ 警告

モータバイクの安全で安定した操縦には、精確なホイールバランスが欠かせません。ホイールバランスウェイトを取り外したり、変えたりしないでください。ホイールバランスが適切でなければ、不安定な状態に陥り、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

タイヤを交換した後など、ホイールバランスの調整が必要な場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

自動接着性のウェイト以外は使わないでください。クリップオンウエイトは、ホイールやタイヤに損傷を与え、タイヤの空気圧を低下させるため、コントロールが失われて事故に帰する恐れがあります。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生させる時があります；火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

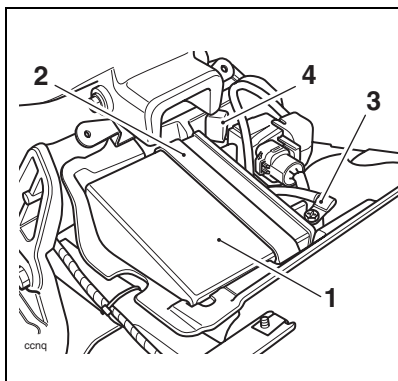
バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

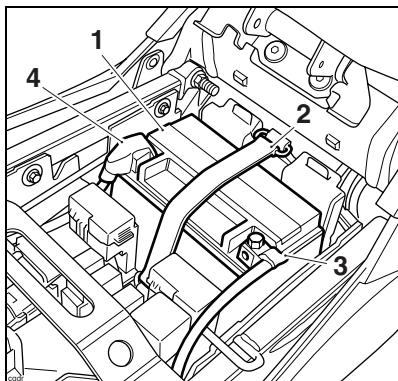
⚠ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーにジャンプリードを付けたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。そのようなことをすると火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故を起こす危険があります。

バッテリーの取り外し

Sprint ST

1. バッテリー
2. バッテリーストラップ
3. マイナス（黒）端子
4. プラス（赤）端子

Sprint GT

1. バッテリー
2. バッテリーストラップ
3. マイナス（黒）端子
4. プラス（赤）端子

シートを取り外します。

バッテリーストラップを外します。

最初にマイナス（黒）の方からバッテリーのリード線を外します。

バッテリーをケースから出してください。

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーの処分

万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してくれます。

バッテリーの整備

乾いた清潔な布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があって有毒であり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管だけしている場合に電圧チェックや定期的な充電が必要なだけです。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外してください。

バッテリの放電

注意

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。

バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール（ECM）メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が増早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの放電

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されているメーカーの指示書に従ってください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合、バッテリーの充電を行ってください（ページ *103* 参照）。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化を発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされておりません。

バッテリーを常にフルに充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェックまたはバッテリーの充電に関する詳しいことは、貴地の Triumph ディーラーにご連絡ください。

警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します;火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸(バッテリー液)が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

注意

充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が12.7 V以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。モータバイクから必ずバッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーに同梱されていたマニュアルにしたがってください。

長期(2 週間以上)に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumph が承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーをバッテリーケースに入れます。

プラス(赤)のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

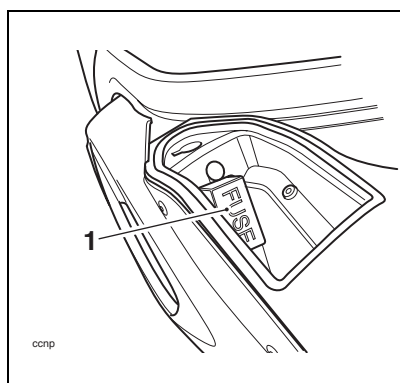
腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。

プラスの端子に保護キャップをかぶせます。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

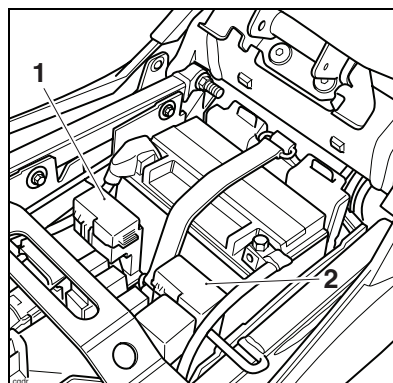
シートを再装着します。

ヒューズボックス

Sprint ST

1. ヒューズボックス

ヒューズボックスは、フロントフェアリング右側の、取り外し可能なパネルの下にあります。

このヒューズボックスにアクセスするには、イグニッションキーを差し込んでパネルを取り外します。

Sprint GT

1. 左側ヒューズボックス
2. 右側ヒューズボックス

ヒューズボックスはシートの真下にあります。シートを外して、ヒューズボックスの作業を行います。

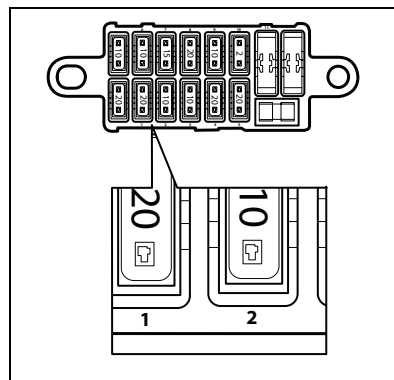
警告

ヒューズが切れた時は、必ず正しい定格（ヒューズボックスのカバーに明記されているとおり）のヒューズで付け替え、絶対に定格が上のヒューズは使わないでください。適切でないヒューズを使うと、電装系統がトラブルを起こす可能性があり、モーターバイクに損傷を与えて制御不能に陥らせ、事故を招く恐れがあります。

ヒューズの識別 - Sprint ST

ヒューズは、下図のように、各ヒューズに隣接したヒューズボックスハウジングに付いている番号によって識別できます。これらの番号は下の表に記載されている番号に対応しています。識別番号の付いていないヒューズはスペアで、使った後は補充しなくてはなりません。

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。どのヒューズが切れたかを調べる時は、以下の表を参考にしてください。

保護回路	位置	定格（アンペア）
スタータソレノイド、ディップおよびメインビームヘッドライト	1	20
イグニッションスイッチメインフィード、テールライト、ナンバープレートライト、サイドライト、フューエルポンプ	2	10
インジケーター、ブレーキライト、ホーン	3	10
不使用	4	
不使用	5	
アクセサリーソケット、ヒートグリップ	6	10
冷却ファン	7	15
エンジン管理システム	8	10
アラーム、診断コネクター、計器類	9	10
GPS	10	2

ヒューズの識別

注記：

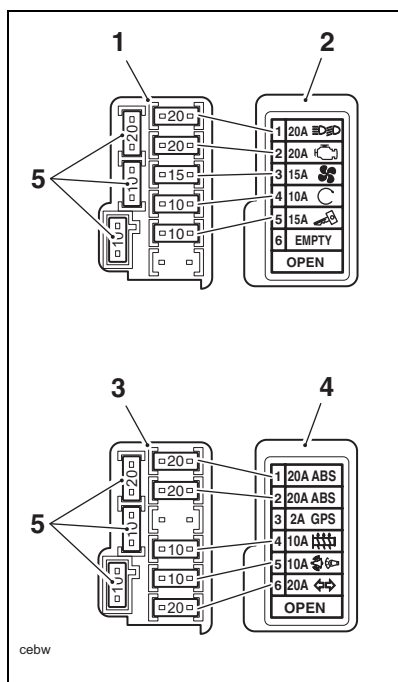
- スターターソレノイドには予備の 30 アンペアヒューズがあり、ライダーシートの下にあるソレノイドに直接取り付けられています。

ヒューズの識別 - Sprint GT

表に載っているヒューズ識別番号は、以下のようにヒューズボックスカバーに印刷されている番号と対応しています。スペアヒューズはメインヒューズと直角に置かれており、スペアヒューズを使ったら補充してください。

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。どのヒューズが切れたかを調べる時は、以下の表を参考にしてください。

ヒューズボックス No.1		
保護回路	位置	定格（アンペア）
ディップおよびメインビームヘッドライト、スターターリレー	1	20
エンジン管理	2	20
冷却ファン	3	15
燃料ポンプ	4	10
アラーム、計器、ECM	5	10
不使用	6	

ヒューズボックス No.2		
保護回路	位置	定格（アンペア）
ABS のみ	1	20
ABS のみ	2	20
ヒートグリップ、アクセサリーソケット、トップボックス	3	
ホーン、インジケーター、アラーム	4	10
アラーム、診断コネクター、計器類	5	10
インジケーター、ブレーキライト、ホーン	6	20

1. ヒューズボックス No.1（左側）
2. ヒューズボックスカバー
3. ヒューズボックス No.2（右側）
4. ヒューズボックスカバー
5. スペアヒューズ

注記：

- スターターソレノイドには予備の 30 アンペアヒューズがあり、ライダーシートの下にあるソレノイドに直接取り付けられています。

ヘッドライト

警告

走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、路面の前方を十分遠くまで照らせるようビームを調整してください。ヘッドライトが正しく調整されていないと、視界が損われて事故を招く恐れがあります。

警告

走行中にヘッドライトビームを調整しないでださい。

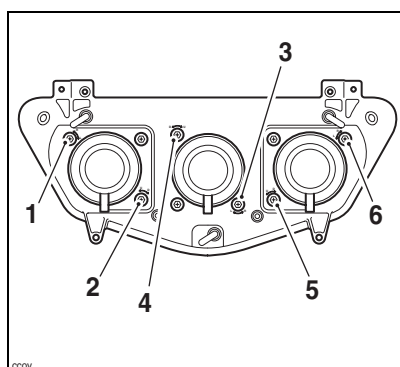
走行中にヘッドライトビームの調整すると、バランスを崩して事故を引き起こしかねません。

注意

定められたコースでモータバイクを運転する場合、目につくヘッドライト外面にテープを貼るように言われます。

テープを貼ると、ヘッドライトの外面が熱を帯びてゆがみます。ヘッドライトが変形しないようにするため、定められたコースで運転する時にテープを貼る際、必ずヘッドライトを切ってください。

ヘッドライトの調整

ヘッドライトは、ヘッドライト上部と裏側にある上下調整ネジとと左右調整ネジで調整できます。

1. 左右調整用ネジ（左側ディップヘッドライト）
2. 上下調整用ネジ（左側ディップヘッドライト）
3. 左右調整用ネジ（メインビーム）
4. 上下調整用ネジ（メインビーム）
5. 上下調整用ネジ（右側ディップヘッドライト）
6. 左右調整用ネジ（右側ディップヘッドライト）

注記：

- 図は、ライティングアッセンブリを後から見たものです。
- 調整用ネジを回す際の時計回りと反時計回り方向とは、ライティングアッセンブリの後ろ側から見た場合の方向です。

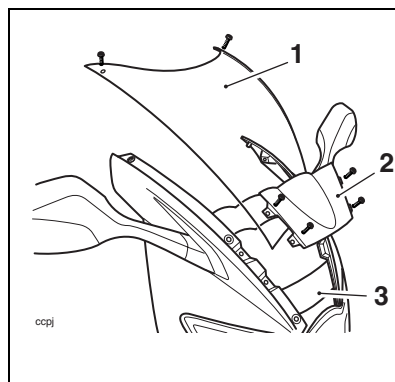
メインビームの左右方向の調整

メインビームの左右方向調整ネジの作業は、パネルを外さずにできます。ライトの下から触れることができます。

メインビームのスイッチを入れます。

ビームを左に向けるには調整用ネジを時計回りに、ビームを右に向けるにはネジを反時計回りに回してください。

ビーム設定を終えたら、ヘッドライトのスイッチを切ってください。

メインビームの上下方向の調整

1. ウィンドスクリーン
2. カバーパネル
3. 調整ネジの作業

フロントガラスをコックピットに固定しているネジを外します。フロントガラスを上方にずらしてから後方に引いて外します。

カバーパネルを固定しているネジを取り、パネルを外します。

これで調整用ネジの作業ができます。

メインビームのスイッチを入れます。

ビームを上げるには時計回りに、下げるには反時計回りに、上下方向調整ネジを回します。

ビーム設定を終えたら、ヘッドライトのスイッチを切ってください。

カバーパネルとフロントガラスを再び取り付けます。

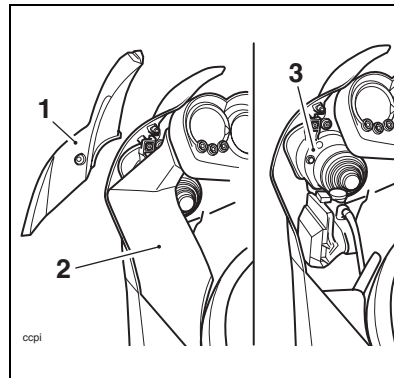
ディップヘッドライトの上下方向の調整

ディップヘッドライトの上下方向の調整用ネジは、パネルを取り外さずに作業できます。左または右側のライトの下から、触れることができます。作業がしやすいようにハンドルを回します。

ヘッドライトビームのスイッチを入れます。

ビームを上げるには反時計回りに、下げるには時計回りに、上下方向調整ネジを回します。

ビーム設定を終えたら、ヘッドライトのスイッチを切ってください。

ディップヘッドライトの左右方向の調整

1. 左側フィラーパネル
2. クーラント膨張タンクカバー
3. 左側のヘッドライト調整用ネジ

左右のフィラーパネルを取り外します。

クーラント膨張タンクと収納ボックス / ヒューズボックスのカバーパネルを取り外します。収納ボックスライナーやヒューズボックスを取り外す必要はありません。

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

これで、調整ネジに作業ができます。

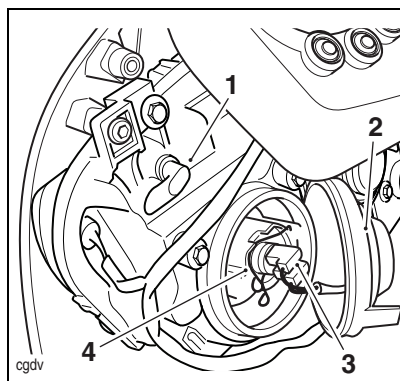
右側ヘッドライトの場合、ビームを右に動かすには調整ネジを時計回りに、ビームを右に動かすには反時計回りに回してください。

左側のヘッドライトの場合は、左右調整ネジを、ビームを右に動かすには反時計回りに、ビームを左に動かすには時計回りに回してください。

ビーム設定を終えたら、ヘッドライトのスイッチを切ってください。

カバーおよびフィラーパネルを再び取り付けます。

ディップヘッドライトバルブ交換

バルブの交換時、ディップヘッドライトを外す必要はありません。左右フィラーパネル、クーラント膨張タンク、収納 / ヒューズボックスカバーパネルは、取り外してください。

1. ヘッドライト
2. ゴムカバー
3. マルチピン接続結線
4. バルブリテーナー

ディップヘッドライトバルブの交換：

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

付属フィラーとカバーパネルを取り外します。

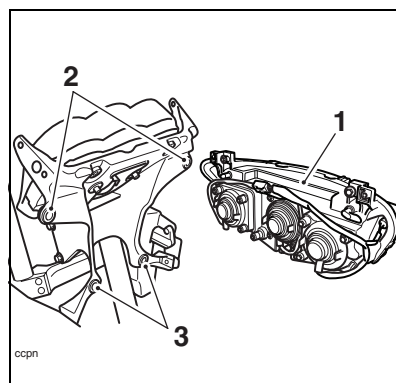
ゴムカバーを取り外し、交換するバルブからマルチピン電気コネクターの接続を外します。

ワイヤーバルブリテーナーをクリップから引き離します。ネジを緩める必要はありません。

ヘッドライトユニットからバルブを取り外します。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

メインビームのバルブ交換

バルブ交換の場合、コックピットとヘッドライトユニットをすべて取り外してください。

1. ヘッドライトユニット
2. サイド取り付け部
3. 中央取り付け部

メインビームバルブの交換：

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

コックピットを取り外します。

ヘッドライトユニットをサポートブラケットに固定しているナットを緩め、ユニットを取り外します。

ゴムカバーを取り外し、交換するバルブからマルチピン電気コネクターの接続を外します。

ワイヤーバルブリテーナーをクリップから引き離します。ネジを緩める必要はありません。

ヘッドライトユニットからバルブを取り外します。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

警告

バルブは使用中は熱くなります。時間を十分かけてバルブを冷ましてから、取り扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした時は、再使用する前にアルコールで拭き取ってください。

ポジションランプバルブの交換

ポジションランプはヘッドライトの開口部に取り付けられています。

ポジションランプの後方から、ゴム製のバルブホルダーを注意深く取り外し、バルブを外します。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

注意

水の浸入を防ぐために、バルブホルダーの取り付けは正確に行なってください。

警告

バッテリーへの再接続は、プラス（赤）のリード線から行なってください。

警告

組立作業が完了するまで、バッテリーを再接続しないでください。作業の途中で再接続すると、バッテリーガスに引火して負傷事故をもたらしかねません。

リアライト

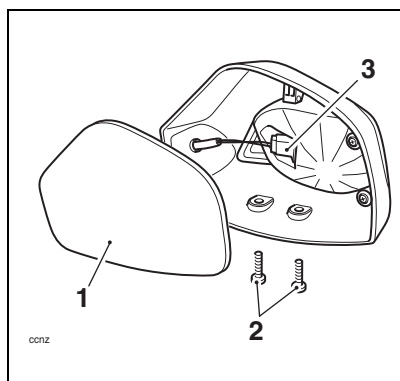
リアライトユニットは、密封してある整備不要の LED ユニットです。

警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。LED ユニットが故障した場合、最寄りの正規Triumphディーラーに相談してください。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

方向指示灯

フロントインジケーターバルブの交換

1. ミラーガラス
2. 固定ネジ
3. バルブホルダー

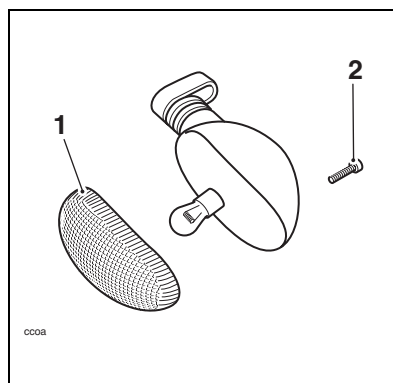
ミラー外枠下のネジを緩め、ミラーガラスを取り外して、バルブホルダーの作業を行います。

⚠ 注意

ネジを緩める時、枠から外れ落ちないようミラーガラスを支えてください。

慎重にゴム製のバルブホルダーを外し、バルブを引き離します。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

リアインジケーターバルブの交換

1. インジケーターレンズ
2. レンズスクリュー

インジケーターライトのレンズは、ライト本体のネジで所定の位置に固定されています。

ネジをゆるめレンズを取り外すと、バルブ交換作業ができます。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

ライセンスプレートライト

バルブの交換

ライセンスプレートライトの後方からバルブホルダーを取り外し、さらにバルブを外します。

⚠ 注意

ケーブルの損傷を避けるため、ケーブルでバルブホルダーを引っぱらないでください。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

⚠ 注意

水の浸入を防ぐために、バルブホルダーの取り付けは正確に行なってください。

ウィンドスクリーンの洗浄

ウィンドスクリーンは、弱性石鹸か洗剤の溶液とぬるま湯で汚れを落としてください。洗浄後はよくすすぎ、柔らかく糸くずの出ない布で拭いてください。

⚠ 注意

ウィンドウの洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、あるいはアルコール、アセトン、四塩化炭素などのような洗浄力の強い溶剤は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。絶対に、これらの製品をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

除去できないひっかき傷や酸化により、ウィンドスクリーンの透明度が落ちてきた場合、ウィンドスクリーンは交換する必要があります。

⚠ 警告

モーターバイクが走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとしてはなりません。ハンドルから手を離すと車両は制御不能に陥って、事故を引き起こしかねないからです。

ウィンドスクリーンに損傷やひっかき傷のある状態でモーターバイクを運転すると、ライダーの視界が悪くなります。視界が悪いと危険であり、人身事故を引き起こしかねません。

⚠ 注意

バッテリー液などの腐食液はフロントガラスを損ないます。絶対に、腐食性化学物質をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。

クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック：キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたり、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗い布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざらした道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗い布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- 計器類
- ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- 燃料タンクの下
- ドライブチェーン
- ヘッドストックベアリング
- ホイールベアリングとサスペンションリンケージベアリング

注意

コックピット領域下に水を吹きつけないでください。エンジンの吸気ダクトがこの領域にあり、この領域に水がかかると、エアボックスとエンジンに浸入し、損傷させる恐れがあります。

注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

注記：

- アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。

洗車後

ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。

ピボット、ボルト、ナット類に注油します。

モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。

エンジンを始動させ、5分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。

乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。

警告

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

シートケア

注意

シートのクリーニングに、化学薬品や高圧洗浄機の使用は奨励しません。化学薬品や高圧洗浄機を使用すると、シートカバーを損なう恐れがあります。

外見を保つため、石鹸と水を含ませたスポンジとクリーニング用布で、シートを洗浄してください。

塗装されていないアルミニウム部品

ブレーキやクラッチレバーのような部分は、外観を保つために適切な方法で汚れをとる必要があります。

研磨剤や腐食成分を含まない、専用ブランドのアルミニウムクリーナーを使ってください。

アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。 特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。

整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。同じことが、クロームメッキを施し磨いたステンレススチールとカーボンファイバー製の部品に対しても言えます。

注記：

- **水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。**

洗浄

水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られる強アルカリ性洗剤は使用しないでください。 残留物が残るからです。

柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。

排気装置を徹底的にすすいでください。

排気管に石鹸水や水が入らないようにしてください。

乾燥

排気装置を柔らかい布で拭いて、できる限り水分を取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。 水滴の跡が残ります。

保護

排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect 」を表面にすり込みます。

注意

シリコンを含む製品を使うとクロムの変色を招くことがありますので、使わないでください。同様に、研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

保管

保管前の準備

車体全体をくまなくきれいにします。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。

警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

シリンダーからスパークプラグを外し、エンジンオイルをシリンダーごとに数滴（5 cc）垂らします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取付け、12 Nm のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します（ページ *74* 参照）。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（ページ *122* 参照）。

両ホイールが地面から浮き上がるように、モーターバイクをボックスの上に置くかセンタースタンドを立てます。（これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください。）

塗装されていない金属面に防錆油（市場には多くの製品が出回っているので、貴地の代理店に問い合わせてください）をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

チェーンをチェックし、調整します（*83* ページを参照）。

不凍液と蒸留水を 50 対 50 で混合した液が充填されているか、冷却装置を確認してください（ページ *120* 参照）。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。モーターバイクから外してあるバッテリーは、2 週間ごとに（1 アンペア以下で）充電してください（*101* ページを参照）。

モーターバイクは、ひんやりとして乾燥し、直射日光が射さず、一日の温度変化が小さい場所に保管します。

モーターバイクにカバーをかけ、ほこりやごみが積もらないように適切な多孔性カバーをしてください。プラスチックのような通気性のない、熱や湿気のこもりやすい材質の被覆が施された材質の物は避けてください。

保管後の走行準備

バッテリーを再度取り付けます（ページ*103*参照）。

4ヶ月以上乗らなかったモータバイクの場合、エンジンオイルを交換してください(ページ*74*参照)。

日常の安全点検の項に記載されている項目をすべてチェックします。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し12 Nmのトルクで締め付け、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（ページ*122*参照）。

ブレーキをチェックし、調整します。

低速でモーターバイクを試運転します。

仕様

	Sprint ST	Sprint GT
寸法		
全長	2,114 mm	2,260 mm
全幅	745 mm	940 mm
全高：	1,215 mm	1,210 mm
輪間距離	1,457 mm	1,565 mm
シート高	820 mm	815 mm
重量		
湿重量	241 kg	268 kg
最大車載重量	215 kg	215 kg
エンジン		
タイプ	直列３気筒	直列３気筒
排気量	1050 cc	1050 cc
ボア x ストローク	79 x 71.4 mm	79 x 71.4 mm
圧縮比	12,0:1	12.0:1
シリンダナンバー	左から右へ	左から右へ
シリンダー順番	左側が 1	１は左側
点火順	1-2-3	1-2-3
始動方式	電動スターター	電動スターター

仕様

	Sprint ST	Sprint GT
性能		
最大出力＊	125 PS/9,1000 rpm	129.9 PS/9,200 rpm
最大トルク	最大トルク 103 Nm/ 7,500 rpm	最大トルク 108 Nm/ 6,300 rpm
潤滑		
タイプ	強制潤滑（ウエットサンプ方式）	強制潤滑（ウエットサンプ方式）
クーリング		
クーラントタイプ	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
水 / 不凍剤比	50 対 50（出荷時に Triumph で混合済み）	50 対 50（出荷時に Triumph で混合済み）
クーラント容量	2.3 リッター	2.3 リッター
サーモスタット開（公称）	85 - 88℃	85 - 88℃
燃料システム		
タイプ	電子燃料噴射	電子燃料噴射
インジェクター	ツインジェットソレノイド作動式プレートバルブ	ツインジェットソレノイド作動式プレートバルブ
燃料ポンプ	サブマージ電動型	サブマージ電動型
燃料圧	2.94 バール（公称）	2.94 バール（公称）
燃料		
タイプ	無鉛 95 RON	無鉛 95 RON
スチール製燃料タンク容量	20 リッター	20 リッター

＊ DIN 70020

	Sprint ST	Sprint GT
イグニッション		
点火方式	デジタル誘導式	デジタル誘導式
電子レブリミター (r/min)	9,500 (r/min)	9,500 (r/min)
スパークプラグ	NGK CR9EK	NGK CR9EK
スパークプラグの隙間	0.7 mm	0.7 mm
許容隙間	+0.05 / -0.1 mm	+0.05 / -0.1 mm
トランスミッション		
タイプ	6 速、常時噛合式	6 速、常時噛合式
クラッチ	湿式多版	湿式多版
ファイナルドライブチェーン	DID X- リングエンドレス、106 リンク	DID X- リングエンドレス、116 リンク
プライマリドライブ比	1.750 (105/60)	1.750 (105/60)
歯車比：		
ファイナルドライブ比	2.211 (19/42)	2.211 (19/42)
1 速	2.733 (15/41)	2.733 (15/41)
2 速	1.947 (19/37)	1.947 (19/37)
3 速	1.545 (22/34)	1.545 (22/34)
4 速	1.292 (24/31)	1.292 (24/31)
5 速	1.154 (26/30)	1.154 (26/30)
6 速	1.074 (27/29)	1:1 (28/28)

	Sprint ST	Sprint GT
タイヤ		
タイヤ空気圧（冷寒時）：		
フロント	2.5 バール	2.5 バール
リア	2.9 バール	2.9 バール
認定タイヤ / サイズ :		
オプション 1		
フロント	Bridgestone BT021 (FBZ)120/70ZR17	Bridgestone BT021 (FBZ)120/70ZR17
リア	Bridgestone BT021 180/55ZR17	Bridgestone BT021 180/55ZR17
オプション 2		
フロント	Pirelli Angel ST 120/70ZR17 （A 仕様）	Pirelli Angel ST 120/70ZR17 （A 仕様）
リア	Pirelli Angel ST 180/55ZR17 （E 仕様）	Pirelli Angel ST 180/55ZR17 （E 仕様）
オプション 3		
フロント	Dunlop Sportmax Roadsmart 120/70ZR17	Dunlop Sportmax Roadsmart 120/70ZR17
リア	Dunlop Sportmax Roadsmart 180/55ZR17	Dunlop Sportmax Roadsmart 180/55ZR17

	Sprint ST	Sprint GT
タイヤ（続く）		
オプション 4		
フロント	Bridgestone BT020 120/70ZR17	Michelin Pilot Road II 120/70ZR17（D 仕様）
リア	Bridgestone BT020 U 180/55ZR17	Michelin Pilot Road II 180/55ZR17（B 仕様）

警告

推奨されたタイヤだけを指定の組み合わせで使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。混用すると、モーターバイクのコントロールが失われて事故を招く結果になりかねません。

仕様

	Sprint ST	Sprint GT
電装品		
バッテリー	12 V、10 Ah	12 V、12 Ah
オルタネーター	12 V、35 Am	12 V、35 Am
ヘッドライト	3 x 12 V 55 W ハロゲン H7	3 x 12 V 55 W ハロゲン H7
テール / ブレーキランプ	LED ディスプレイ	LED ディスプレイ
方向指示ランプ	12 V、10 W	12 V、10 W
フレーム		
すくい角	24°	23.5°
トレール	90 mm	84 mm
締付トルク		
オイルフィルター	10 Nm	10 Nm
オイルドレンプラグ	25 Nm	25 Nm
スパークプラグ	12 Nm	12 Nm
リアホイールエキセントリッククランプボルト	55 Nm	55 Nm

	Sprint ST	Sprint GT
フルードと潤滑剤		
エンジンオイル	API SH（またはそれ以上）や JASO MA 仕様を満たした、半合成や完全合成の 10 W/40 か 15 W/50 モーターバイク用エンジンオイル	API SH（またはそれ以上）や JASO MA 仕様を満たした、半合成や完全合成の 10 W/40 か 15 W/50 モーターバイク用エンジンオイル
ブレーキおよびクラッチ液	Mobil ユニバーサルブレーキおよびクラッチ液 DOT 4	Mobil ユニバーサルブレーキおよびクラッチ液 DOT 4
クーラント	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント (混合済み)	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント (混合済み)
ベアリングおよびピボット	Mobil Grease HP 222	Mobil Grease HP 222
ドライブチェーン	Mobil チェーンスプレーまたは Mobilube HD 80	Mobil チェーンスプレーまたは Mobilube HD 80